

6. 投資信託に関する認知・接触状況(全体)

(1) 投資信託の認知状況

投資信託については、「よく知っている」が2.9%、「大体は知っている」が21.6%であり、これらを合わせた“認知率”は24.5%である。一方、「言葉だけは知っている」が68.4%と過半数を占め、「言葉も知らなかった」は7.1%と少ない。

時系列では、前回と大きな変化はみられない。

対象者属性別でみると、性別では、“認知率”は男性の方が高い。

年代別では、“認知率”は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。70歳以上の“認知率”は半数近く(46.0%)にのぼり、このうち「よく知っている」も9.2%みられる。一方、20代では“認知率”は5.8%に過ぎず、「言葉も知らなかった」が22.8%と、特に高い。

年収別では、“認知率”は年収が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、「～1000万円未満」の層では過半数にのぼる(52.1%)。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、“認知率”は保有未経験層では、購入意向層でも4人に1人(25.4%)が知っている程度であり、非購入意向層では12.6%に過ぎない。

投資信託保有種類別では、“認知率”は株式投資信託保有層とその他投資信託保有層で大きな差はみられない。

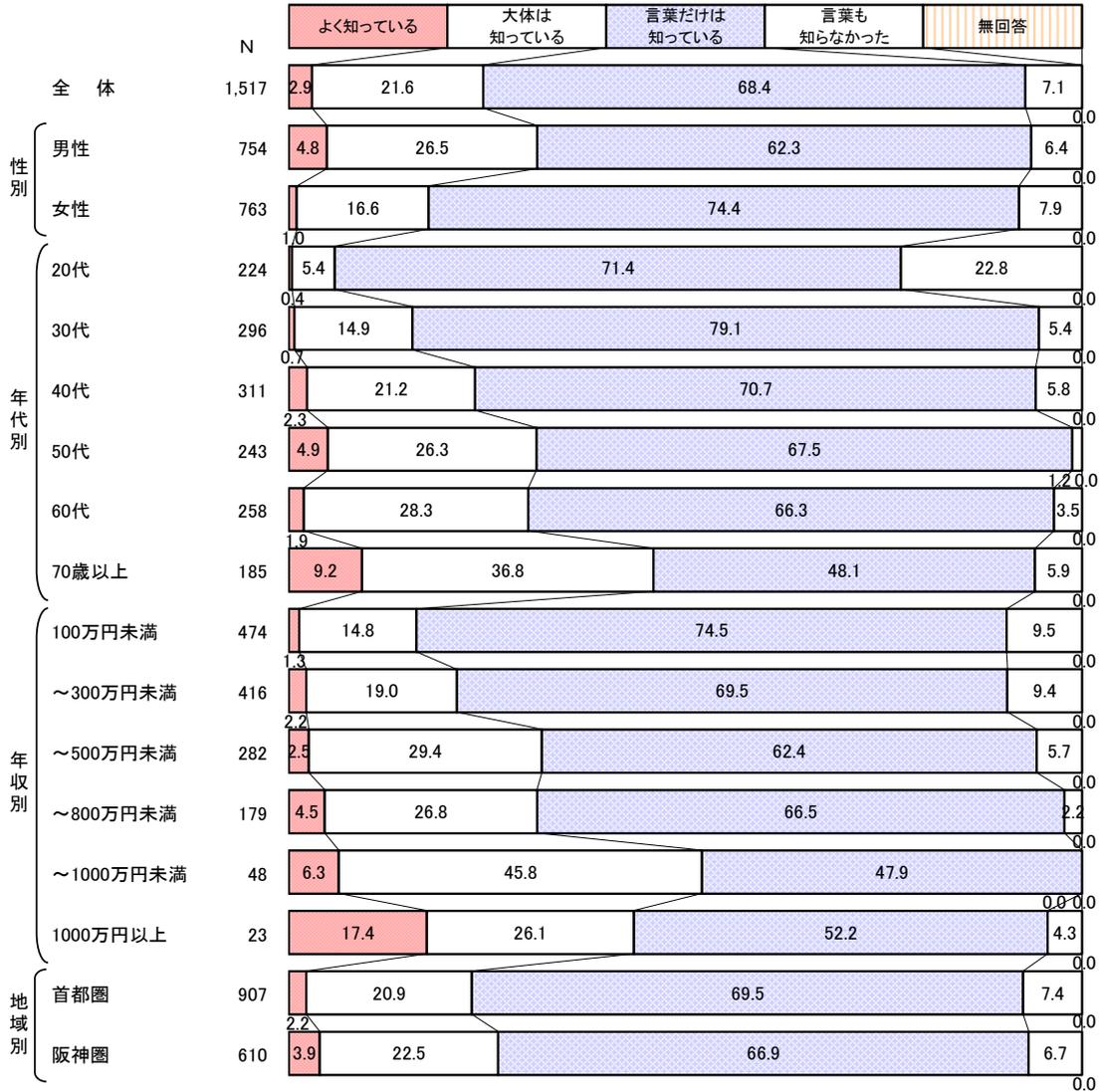
問1【投資信託の認知状況(単数回答)／時系列】

	N	よく知っている	大体は知っている	言葉だけは知っている	言葉も知らなかった	無回答
平成26年	1,517	2.9	21.6	68.4	7.1	0.0
平成25年	1,515	3.7	21.3	68.3	6.7	0.0
平成23年	1,509	13.8		78.7	7.4	0.1
平成22年	1,514	12.7		79.7	7.5	0.0
平成20年	1,507	13.4		80.4	6.2	0.0

※ 平成25年より「大体は知っている」を追加。

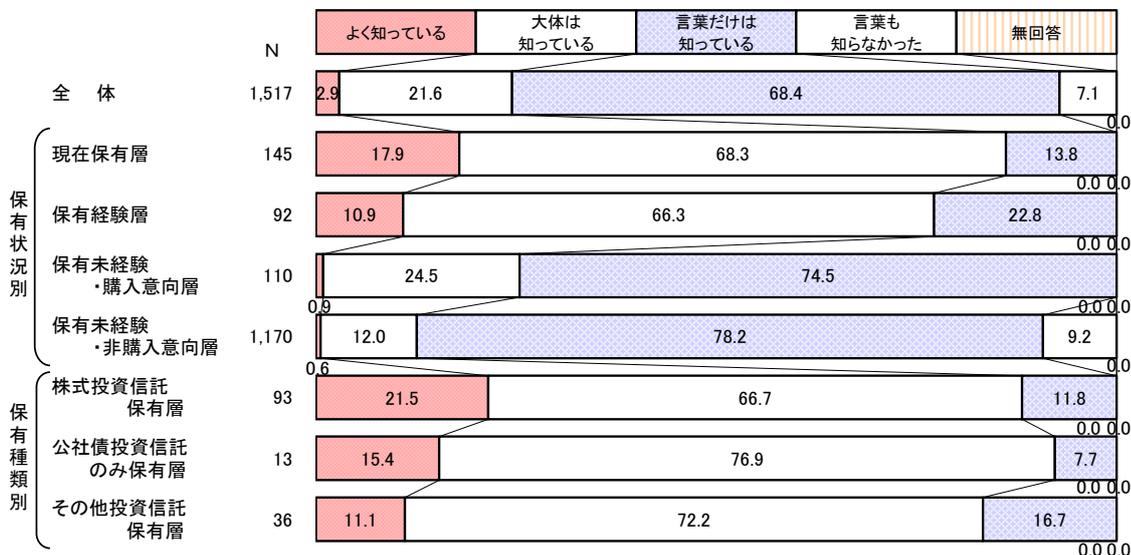
問1【投資信託の認知状況(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問1【投資信託の認知状況(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 投資信託のイメージ

投資信託に対するイメージとしては、「仕組みがわかりにくい」(39.7%)と「元本割れが怖い」(34.9%)が特に高く、これら2つが主なイメージとなっている。次いで、「用語がわかりにくい」(21.0%)、「投資の上級者向けである」(10.3%)の順に続く。「わからない・特にない」も31.0%みられ、具体的なイメージができない人も多い。

時系列でみると、大きな変化はみられない。前回まで「わからない・特にない」に低下傾向がみられたが、今回は前回と同程度となっている。

対象者属性別についてみると、性別では、女性は「仕組みがわかりにくい」が男性に比べ高い。男性は「投資の初心者向けである」が女性より高い。

年代別では、「仕組みがわかりにくい」は50代以下に比べ60代以上では低い。「元本割れが怖い」は20代で特に低い。「用語がわかりにくい」は若年層ほど高い傾向がみられる。この結果、20代では「用語がわかりにくい」が「元本割れが怖い」を上回っているが、60代以上では「元本割れが怖い」が最も高い。「わからない・特にない」は20代で高く、半数近く(41.5%)を占める。若年層にはまず投資信託の基礎知識を浸透させることが重要といえよう。なお、「投資の上級者向けである」は若年層ほどやや高いが、「投資の初心者向けである」は高齢層ほどやや高いという、相反する傾向がみられる。

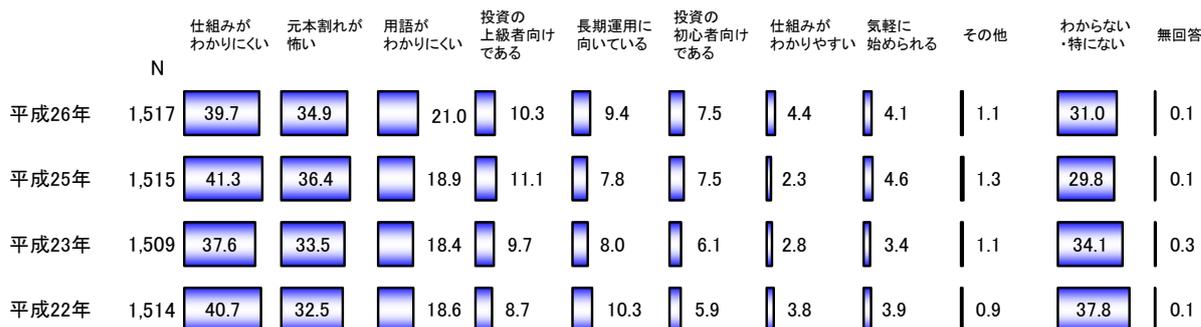
年収別にみると、「わからない・特にない」率は年収が低いほど高い傾向となっている。「～1000万円未満」の高年収層では「仕組みがわかりにくい」は低い、「元本割れが怖い」が高い。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層と保有経験層では「元本割れが怖い」が最も高く、「仕組みがわかりにくい」を大きく上回っている。これらの層は他にも「長期運用に向いている」「投資の初心者向けである」「気軽に始められる」などのイメージが高く、心理的な近さがうかがえる。一方、保有未経験層ではともに「仕組みがわかりにくい」が最も高く、知識を持たないことが購入の大きなハードルとなっている。特に、非購入意向層では「わからない・特にない」が3人に1人を占め(37.7%)、他の層に比べ高い。保有未経験ながらも購入意向層では、「投資の上級者向けである」が他の層に比べて高く、「投資の初心者向けである」を上回っている。この層には心理的な距離を縮めるために、さらなる情報提供が望まれる。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「投資の初心者向けである」がその他投資信託保有層と比べ高い。

問 30 【投資信託のイメージ(重複回答)／時系列】



問 30 【投資信託のイメージ(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	仕組みが わかりにくい	元本割れが 怖い	用語が わかりにくい	投資の 上級者向け である	長期運用に 向いている	投資の 初心者向け である	仕組みが わかりやすい	気軽に 始められる	その他	わからない ・特にな	無回答
全体	1,517	39.7	34.9	21.0	10.3	9.4	7.5	4.4	4.1	1.1	31.0	0.1
性別												
男性	754	37.4	33.4	19.5	9.9	11.3	10.5	4.9	4.6	1.9	29.0	0.1
女性	763	41.9	36.3	22.5	10.6	7.5	4.6	3.9	3.5	0.4	33.0	0.1
年代別												
20代	224	43.8	16.1	25.0	16.5	4.9	2.2	3.6	2.2	0.4	41.5	0.4
30代	296	46.6	35.1	27.4	10.1	7.8	5.7	1.7	3.4	0.0	32.4	0.0
40代	311	40.5	37.9	21.2	13.2	11.3	8.4	5.1	2.9	1.3	27.0	0.3
50代	243	42.8	42.0	22.2	9.5	10.7	9.5	5.3	5.8	1.2	23.5	0.0
60代	258	30.2	39.9	14.3	5.0	11.2	7.8	4.7	6.2	1.6	32.9	0.0
70歳以上	185	31.4	35.7	13.5	6.5	9.7	12.4	7.0	4.3	2.7	30.3	0.0
年収別												
100万円未満	474	40.1	31.6	21.5	12.0	6.8	4.6	4.4	2.3	0.4	36.3	0.4
～300万円未満	416	40.4	32.0	20.0	9.4	6.5	5.0	4.1	2.9	1.2	34.4	0.0
～500万円未満	282	37.6	39.7	23.0	8.2	14.2	11.0	5.7	5.3	0.7	25.5	0.0
～800万円未満	179	48.0	39.1	25.7	12.3	12.3	13.4	3.4	6.1	0.0	21.8	0.0
～1000万円未満	48	31.3	54.2	14.6	12.5	20.8	16.7	6.3	6.3	2.1	14.6	0.0
1000万円以上	23	30.4	30.4	8.7	8.7	17.4	13.0	8.7	8.7	4.3	21.7	0.0
地域別												
首都圏	907	39.6	34.6	21.8	11.0	10.1	7.1	4.1	4.0	1.3	31.4	0.2
阪神圏	610	39.8	35.2	19.8	9.2	8.2	8.2	4.9	4.3	0.8	30.5	0.0

問 30 【投資信託のイメージ(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	仕組みが わかりにくい	元本割れが 怖い	用語が わかりにくい	投資の 上級者向け である	長期運用に 向いている	投資の 初心者向け である	仕組みが わかりやすい	気軽に 始められる	その他	わからない ・特にな	無回答
全体	1,517	39.7	34.9	21.0	10.3	9.4	7.5	4.4	4.1	1.1	31.0	0.1
保有状況別												
現在保有層	145	33.8	53.8	21.4	4.8	30.3	29.7	6.9	20.7	1.4	8.3	0.0
保有経験層	92	28.3	52.2	16.3	4.3	21.7	26.1	7.6	15.2	2.2	9.8	0.0
保有未経験 ・購入意向層	110	50.0	40.9	23.6	19.1	22.7	12.7	5.5	7.3	0.0	8.2	0.9
保有未経験 ・非購入意向層	1,170	40.3	30.6	21.1	10.6	4.5	2.8	3.8	0.9	1.1	37.7	0.1
保有種類別												
株式投資信託 保有層	93	34.4	53.8	21.5	5.4	30.1	36.6	9.7	19.4	2.2	5.4	0.0
公社債投資信託 のみ保有層	13	46.2	53.8	30.8	15.4	30.8	15.4	0.0	23.1	0.0	15.4	0.0
その他投資信託 保有層	36	27.8	52.8	19.4	0.0	30.6	19.4	2.8	25.0	0.0	11.1	0.0

(3) 投資信託の商品特徴認知状況

投資信託の特徴として知っているものを答えてもらったところ、「元本の保証はない」を半数近くがあげており(44.2%)、特に高い。以下、「銀行等の金融機関でも購入できる」「リスクとリターンは相互関係にある」「国内の投資信託と海外の投資信託がある」「価格変動があり、外国投資には為替リスクがある」が約 25%で続き、「投資信託会社が運用している」「MRF・MMF・中期国債ファンドは投資信託商品」は約 15%が認知しているが、これら以外の項目の認知率は10%に満たない。なお、「知っているものは特にない」が38.8%みられ、ほぼ3人に1人が商品特徴を全く知らない状況である。

時系列でみると、平成22年以降前回まで「知っているものは特にない」には低下傾向がみられたが、今回は前回と同程度を維持している。

対象者属性別については、性別では、女性は「知っているものは特にない」が男性より高い。具体的な項目では、認知率は男性の方が高いものも多く、男性の方が多様な点を認知している。

年代別では、20代は「知っているものは特にない」が過半数(60.3%)を占め、全般的に若年層ほど認知率が低い項目が多い。「元本の保証はない」「国内の投資信託と海外の投資信託がある」「MRF・MMF・中期国債ファンドは投資信託商品」の認知率は50代を中心とした山型となっている。

年収別でみると、年収が高いほど認知率が高くなる項目が多く、「元本の保証はない」は「～1000万円未満」の層では70%台にのぼる。一方、「知っているものは特にない」は年収が低いほど高くなり“300万円未満”の低年収層では半数近くを占める。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別にみると、多くの項目で現在保有層の認知率が最も高く、保有経験層、保有未経験・購入意向層、保有未経験・非購入意向層の順に下がる。現在保有層では認知率が70%を超える項目も複数あり、多様な点が理解されている。一方、保有未経験・購入意向層では、「知っているものは特にない」は低いものの、全般的に認知率は低く、知識の広がりが見られない。保有未経験・非購入意向層では「知っているものは特にない」がほぼ半数(48.7%)を占め、知識量は少ない。

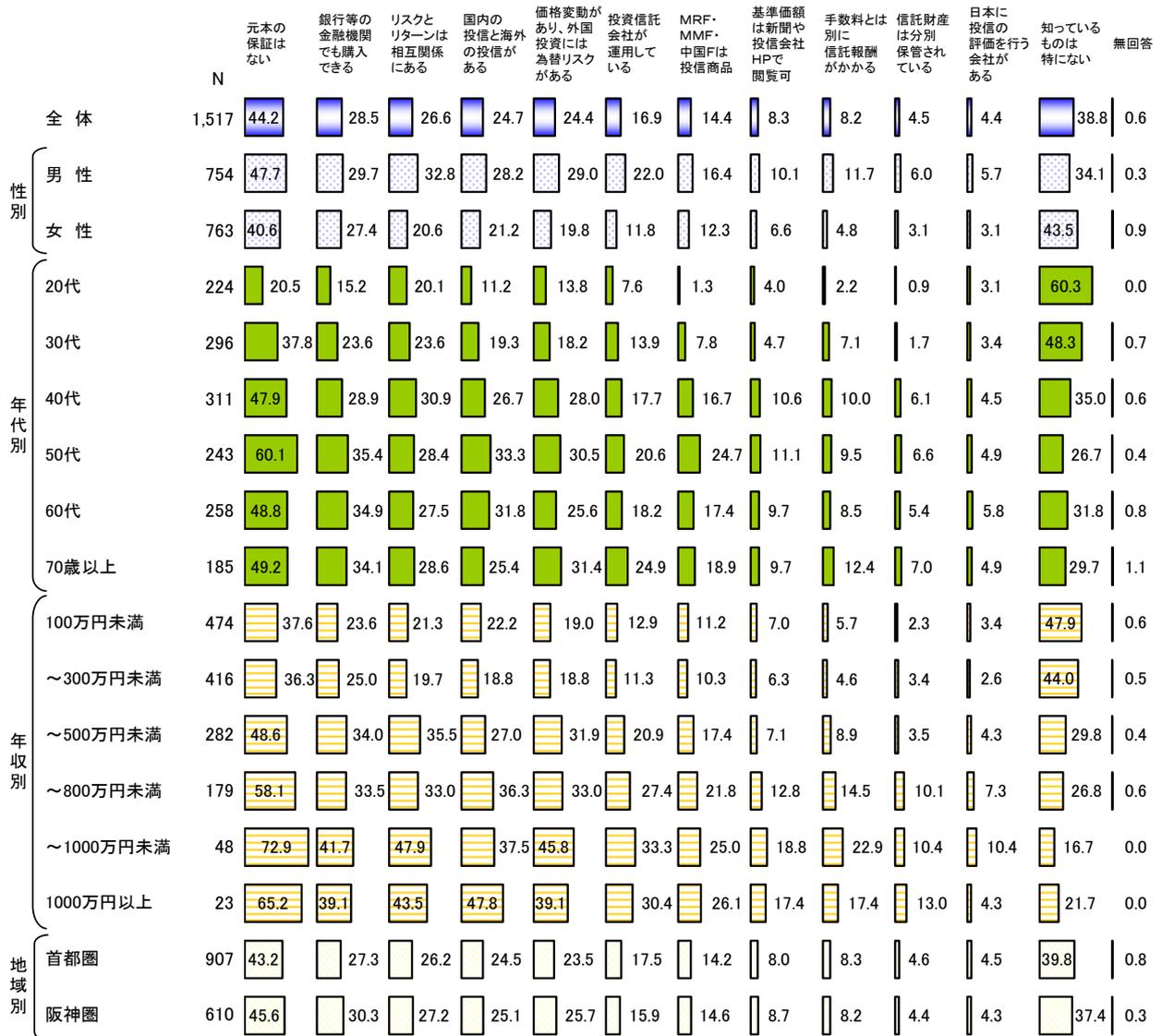
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「リスクとリターンは相互関係にある」「投資信託会社が運用している」「基準価額は新聞や投信社HPで閲覧可」「手数料とは別に信託報酬がかかる」などの認知率がその他投資信託保有層を上回っている。

問 31 【投資信託の商品特徴認知状況(重複回答)／時系列】

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	リスクとリターンは相互関係にある	国内の投資と海外の投資がある	価格変動があり、外国投資には為替リスクがある	投資信託会社が運用している	MRF・MMF・中国Fは投信商品	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	信託財産は分別保管されている	日本に投信の評価を行う会社がある	知っているものは特にない	無回答
平成26年	1,517	44.2	28.5	26.6	24.7	24.4	16.9	14.4	8.3	8.2	4.5	4.4	38.8	0.6
平成25年	1,515	46.5	29.8	26.1	23.2	25.5	16.8	14.7	9.8	8.6	4.8	5.1	38.2	0.4
平成23年	1,509	44.0	26.6	24.4	26.2	26.1	15.3	18.4	9.0	8.0	4.6	4.7	42.3	0.3
平成22年	1,514	40.0	26.0	21.9	21.7	22.5	15.1	16.6	8.6	6.5	4.9	4.4	45.9	0.1
平成20年	1,507	45.9	34.9	25.7	31.4	28.3	18.0	21.1	10.9	9.3	4.0	5.6	38.0	0.2

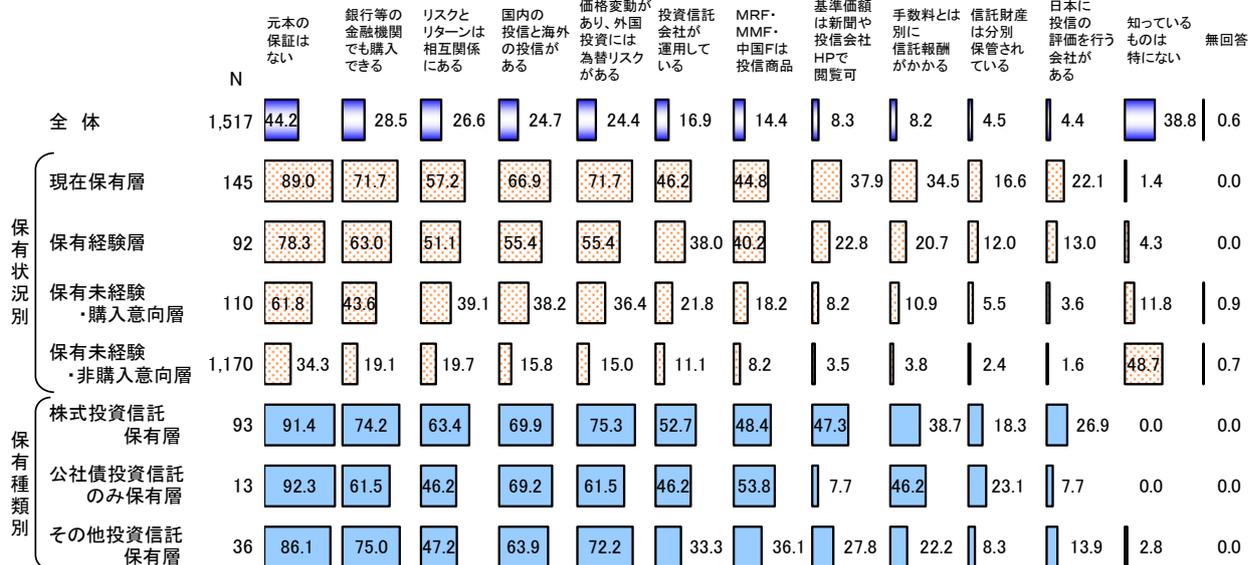
問 31 【投資信託の商品特徴認知状況(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 31 【投資信託の商品特徴認知状況(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(4) 上場投資信託(ETF・不動産投信)の認知と興味

① 上場投資信託の認知

証券取引所に上場している投資信託の認知率は、「不動産投信(J-REIT)」が 11.8%、「ETF(株価指数等に連動する投資信託)」が 7.7%である。この2つの「どちらも知らない」が 85.0%と大半を占め、上場投資信託についてはあまり知られていない。

時系列でも、「不動産投信」「ETF」とも認知率に大きな変化はみられない。

対象者属性別については、性別では、「不動産投信」「ETF」とも認知率は男性の方が高い。

年代別でみると、「不動産投信」「ETF」とも認知率は20代が最も低く、年代が上がるにつれ、わずかずつ高くなる傾向がみられるが、50代以上では同程度となっている。

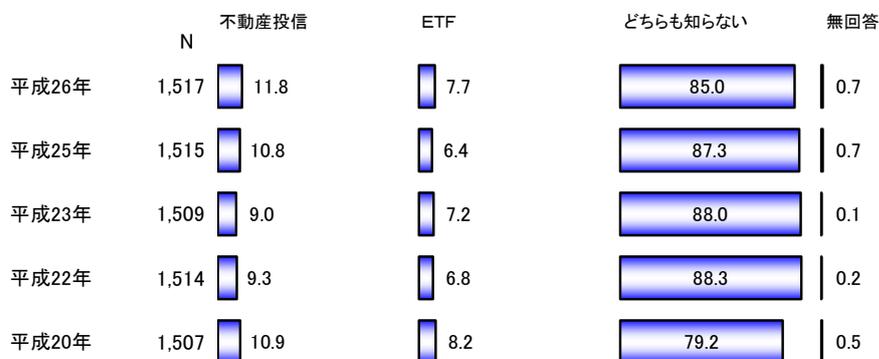
年収別では、「不動産投信」「ETF」とも年収が高いほど認知率が高くなる傾向がみられ、「～1000万円未満」の層ではともに約20%にのぼる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層は半数が「不動産投信」を認知しており(49.0%)、「ETF」も3人に1人が認知している(32.4%)。「不動産投信」の認知率は保有経験層と保有未経験・購入意向層で同程度(約20%)であるが、「ETF」の認知率は保有経験層(21.7%)と保有未経験・購入意向層(10.9%)の開きが大きい。保有未経験・非購入意向層では、いずれも約5%とほとんど知られていない。

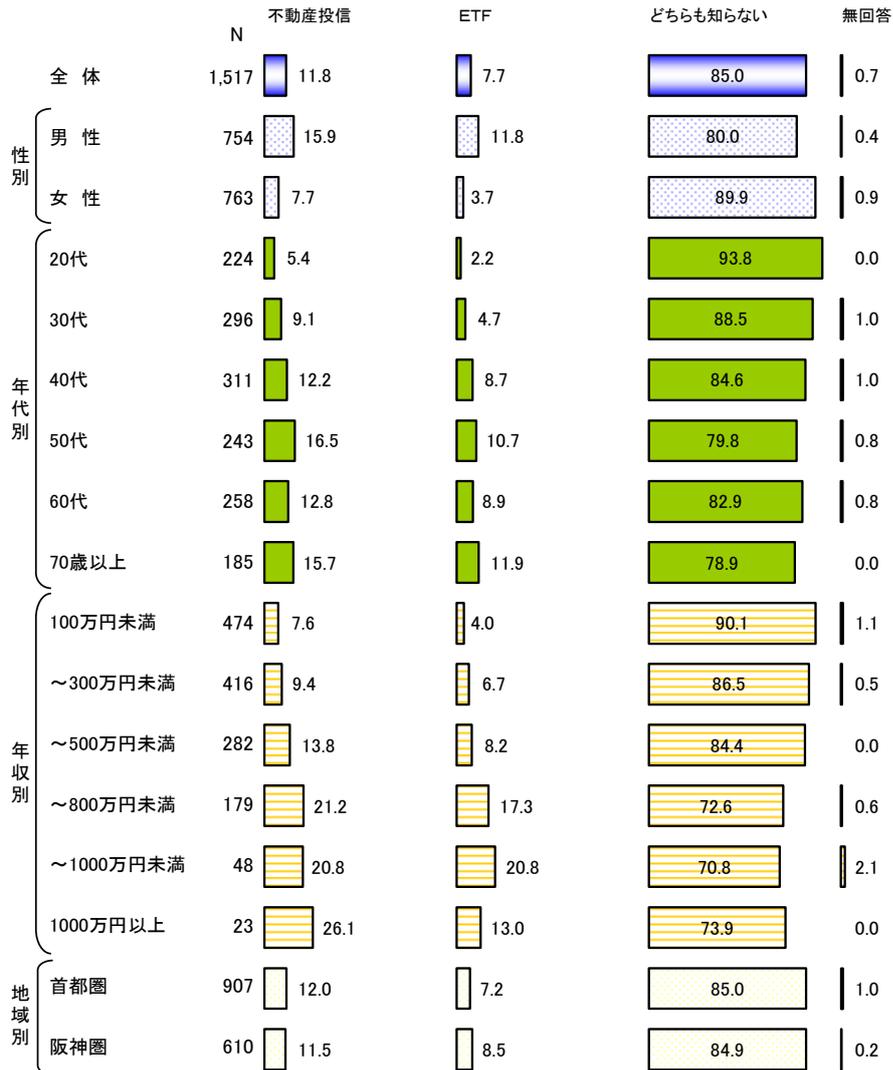
投資信託保有種類別では、「不動産投信」「ETF」とも認知率は、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層で大きな差はみられない。

問 32 【上場投資信託の認知(重複回答)／時系列】



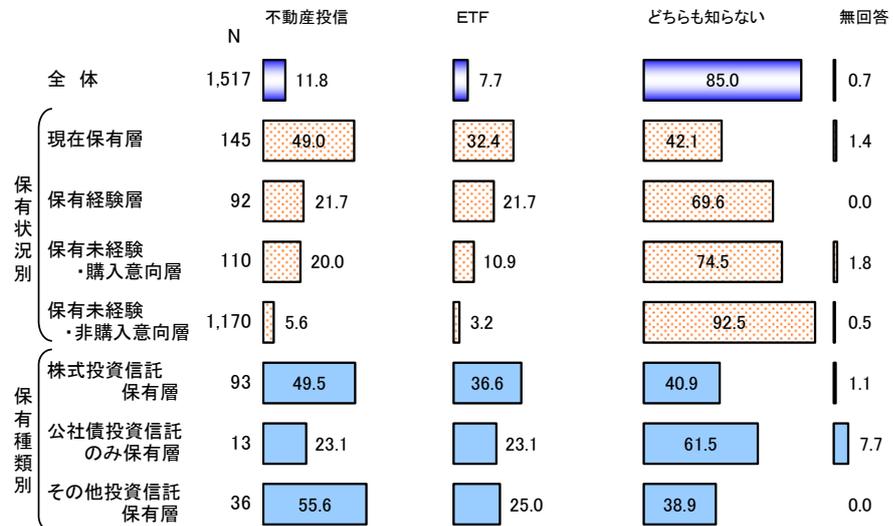
問 32 【上場投資信託の認知(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 32 【上場投資信託の認知(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



②ETFへの興味

上場投資信託のうちETFについては、「現在保有している」＝保有率は1.0%、「購入してみたい」＝購入意向率は1.3%である。「詳しく知らないのでわからない」が71.3%と大半を占め、「購入するつもりはない」(23.9%)を大きく上回っている。

時系列でみると、保有率、購入意向率ともに平成22年以降、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、保有率、購入意向率ともに大きな差はみられないが、男性は「購入するつもりはない」が女性より高く、女性は「詳しく知らないのでわからない」が高い。

年代別でみると、保有率、購入意向率ともに大きな差はみられない。20～30代では「詳しく知らないのでわからない」が80%以上を占め、「購入するつもりはない」は15%以下と低いが、年代が上がるにつれて「購入するつもりはない」が高くなり、50代以上では約30%にのぼる。

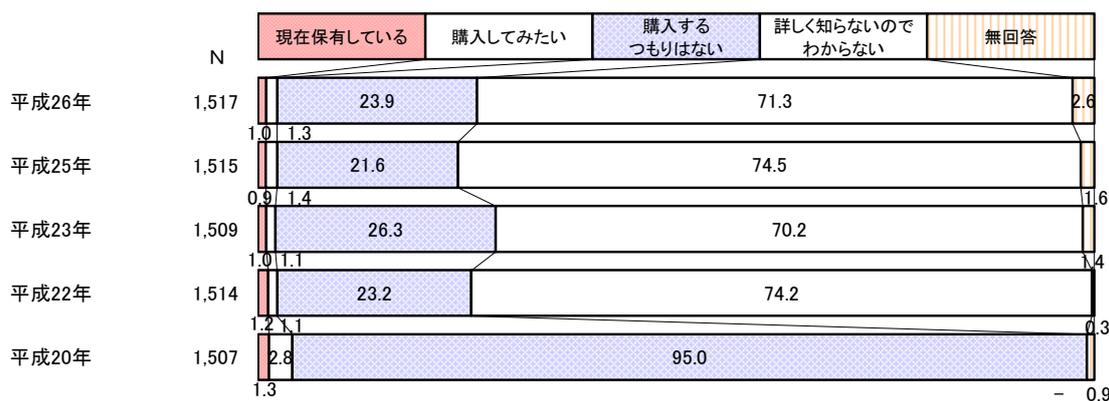
年収別でみると、保有率、購入意向率ともに大きな差はみられない。「詳しく知らないのでわからない」は年収が低いほど高い傾向がみられるのに対し、「購入するつもりはない」は年収が高いほど高くなる傾向がみられ、同じ非購入意向でも年収によって知識レベルに差がある様子がうかがえる。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層のETF保有率は10.3%である。購入意向率は現在保有層で8.3%、保有経験層と保有未経験・購入意向層はともに約4%である。「購入するつもりはない」は現在保有層と保有経験層はともに約30%で並ぶが、保有未経験・非購入意向層は23.8%と低く、保有未経験ながら購入意向のある層は14.5%とさらに低い。ただし、保有未経験層はともに「詳しく知らないのでわからない」が70%台と高く、現在保有層(51.7%)や保有経験層(62.0%)を大きく上回っている。

投資信託保有種類別では、ETF保有率・購入意向率ともに株式投資信託保有層とその他投資信託保有層で大きな差はみられない。

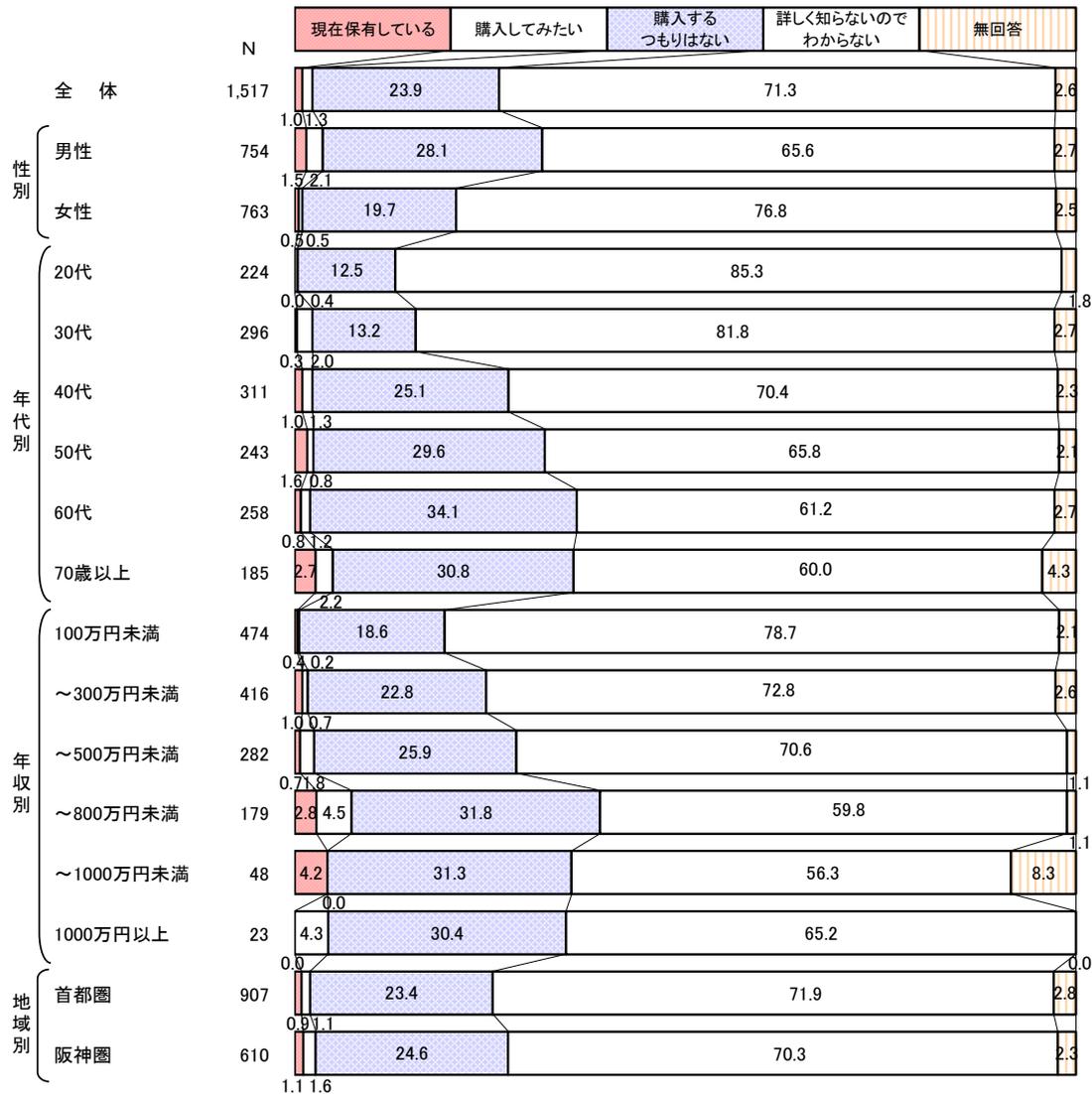
問33①【ETFへの興味(単数回答)／時系列】



※ 平成22年より「詳しく知らないのでわからない」を追加。

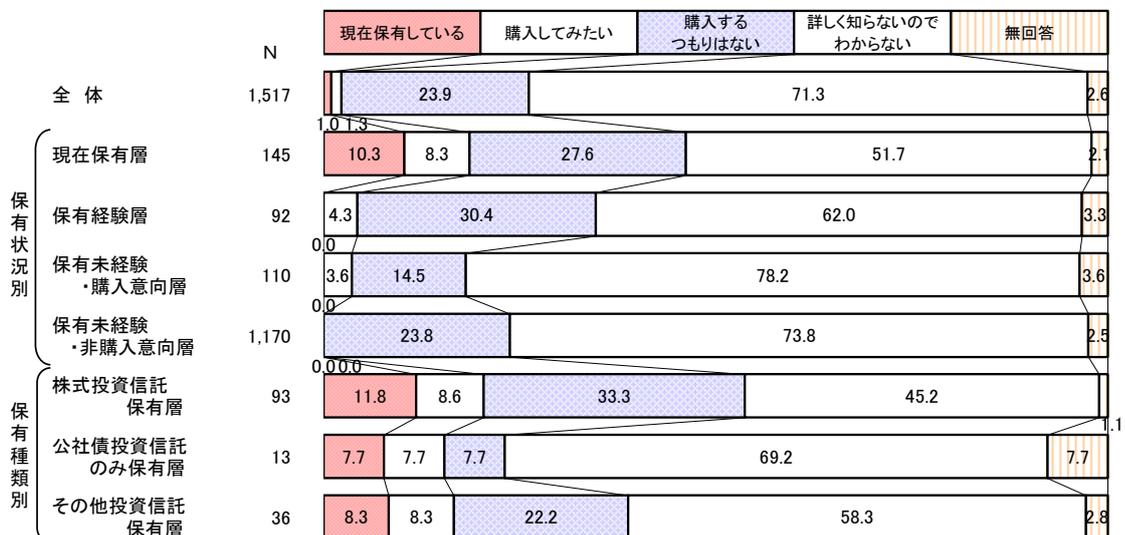
問 33①【ETFへの興味(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 33①【ETFへの興味(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③不動産投信への興味

上場投資信託のうち不動産投信については、「現在保有している」＝保有率は2.4%、「購入してみたい」＝購入意向率は1.6%である。「詳しく知らないのでわからない」が68.1%と大半を占め、「購入するつもりはない」(25.5%)を大きく上回っている。

時系列でみると、保有率、購入意向率とも大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、保有率や購入意向率に大きな差はみられないが、男性は「購入するつもりはない」が女性より高く、女性は「詳しく知らないのでわからない」が高い。

年代別でみると、保有率は50～60代で約4%、70歳以上で5.9%とやや高い。購入意向率には大きな差はみられない。20～30代では「購入するつもりはない」は15%以下と低く、大半が「詳しく知らないのでわからない」であるが、年代が上がるにつれて「購入するつもりはない」が高くなり、50代以上では30%台にのぼる。

年収別では、保有率・購入意向率ともに「～800万円未満」を中心とした層で比較的高い。「詳しく知らないのでわからない」は年収が低い層ほど高く、「100万円未満」の層では大半をこれが占める(75.1%)が、「購入するつもりはない」は年収が高いほど高く、「～1000万円未満」の層では40%近くを占める。つまり、年収が高い層ほど、購入しないと決めている人が増えることがわかる。

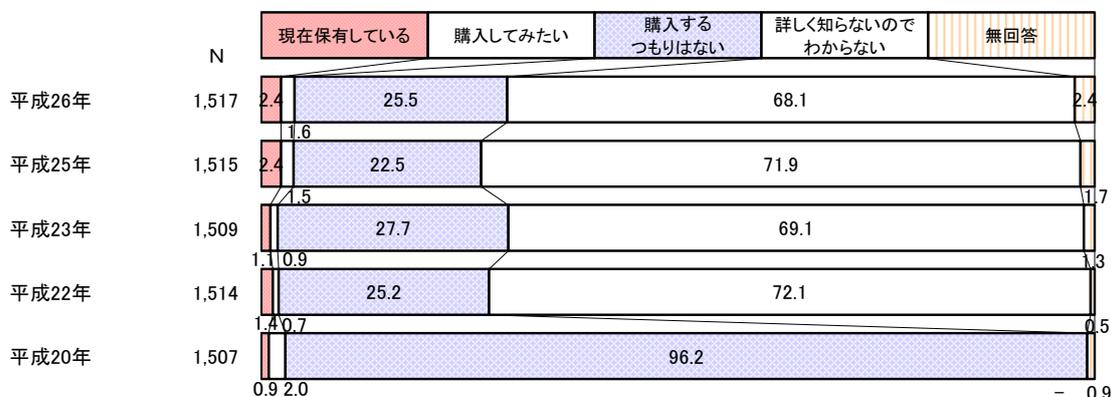
地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層の不動産投信の保有率は25.5%である。購入意向率は現在保有層、保有経験層、保有未経験・購入意向層ともに約5%の同程度となっている。

「購入するつもりはない」は保有経験層(35.9%)、現在保有層(29.7%)、保有未経験・非購入意向層(25.0%)の順に下がり、保有未経験ながら購入意向のある層(17.3%)が最も低い。ただし、保有未経験層はともに「詳しく知らないのでわからない」が70%台と高く、現在保有層(35.9%)や保有経験層(56.5%)を大きく上回っている。

投資信託保有種類別では、不動産投信の保有率・購入意向率ともに株式投資信託保有層とその他投資信託保有層で大きな差はみられない。ただし、株式投資信託保有層は「購入するつもりはない」がその他投資信託保有層より高い。

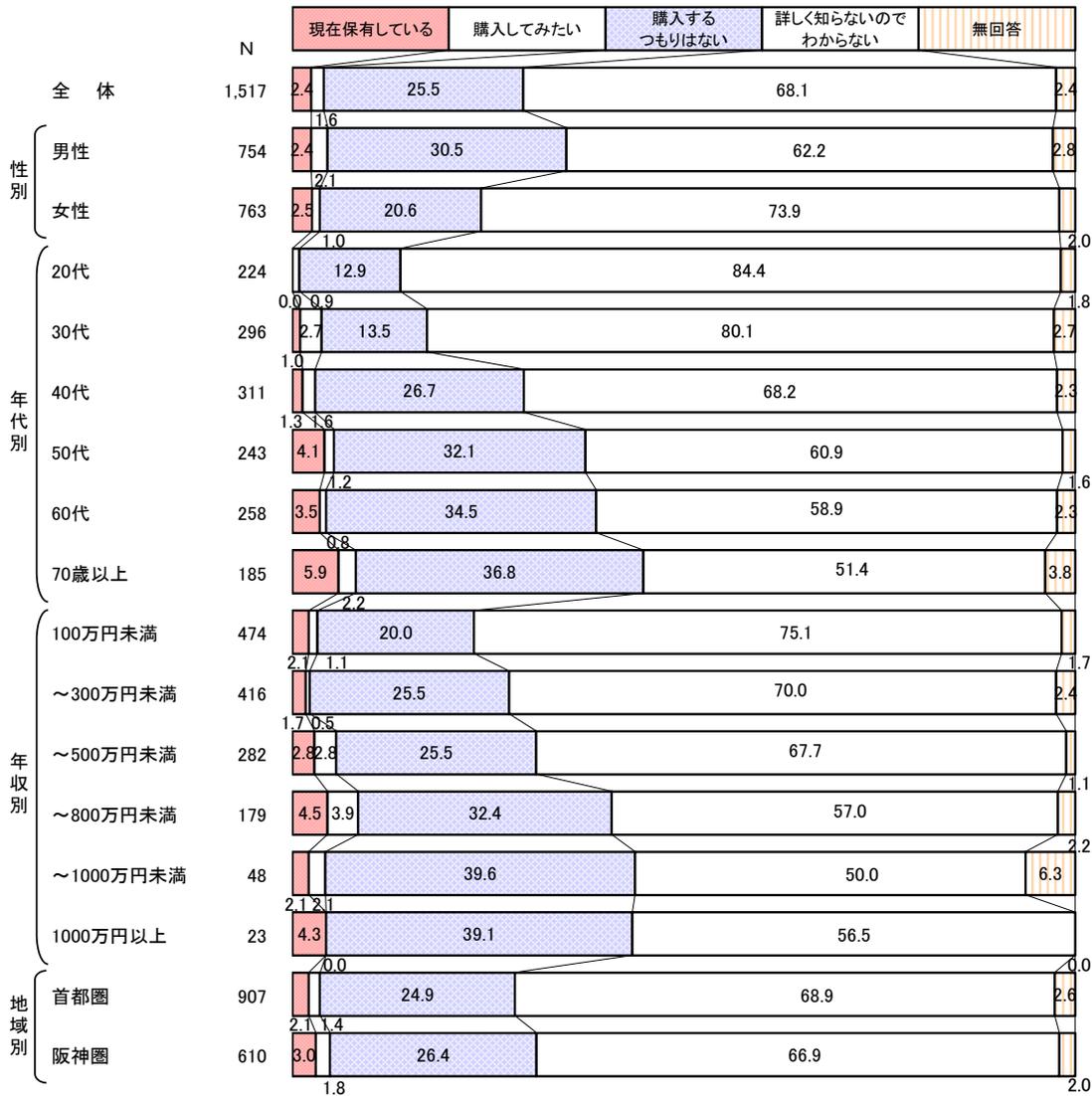
問 33②【不動産投信への興味(単数回答)／時系列】



※ 平成22年より「詳しく知らないのでわからない」を追加。

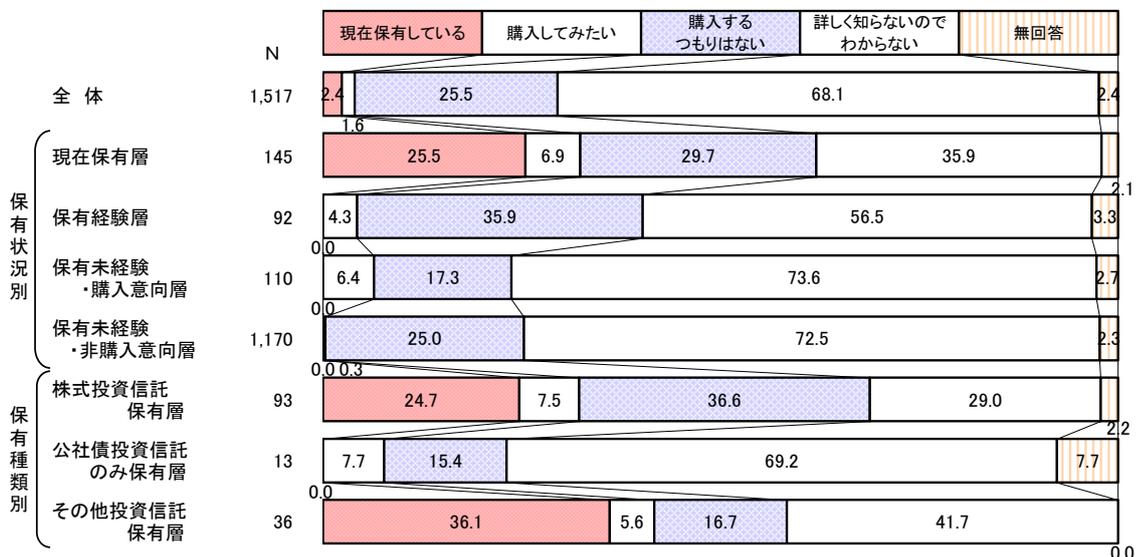
問 33②【不動産投信への興味(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 33②【不動産投信への興味(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



7. 投資信託をはじめとする金融商品への期待・関心状況(全体)

(1) 資産の運用方針

今後の資産運用について最優先して考えていることは、「元本が保証されていること」が最も高く、58.7%と過半数を占める。次いで「少額でも出し入れ自由」(11.4%)、「利回り」(10.7%)、「値上がり期待」(8.4%)が同程度で続く。これら以外は5%に満たない。

時系列では、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、女性は「元本が保証されていること」の優先度が男性に比べて高い。男性は「値上がり期待」が女性に比べ高い。

年代別では、「元本が保証されていること」の優先度は50代(64.2%)が最も高い山型となっており、20代が特に低い(48.2%)。20代では代わりに「少額でも出し入れ自由」が他の年代に比べ高い。

年収別では、「元本が保証されていること」は年収が低いほど高くなる傾向がみられる。一方、「利回り」と「値上がり期待」は年収が上がるにしたがってやや高くなる傾向がみられ、前者は「～800万円未満」の層が最も高い。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では「元本が保証されていること」が半数以下(39.3%)と低く、「利回り」と「値上がり期待」がともに20%台と高い。保有未経験・購入意向層は「利回り」「値上がり期待」の優先度が現在保有層に次いで高く、保有経験層と同程度になっている。

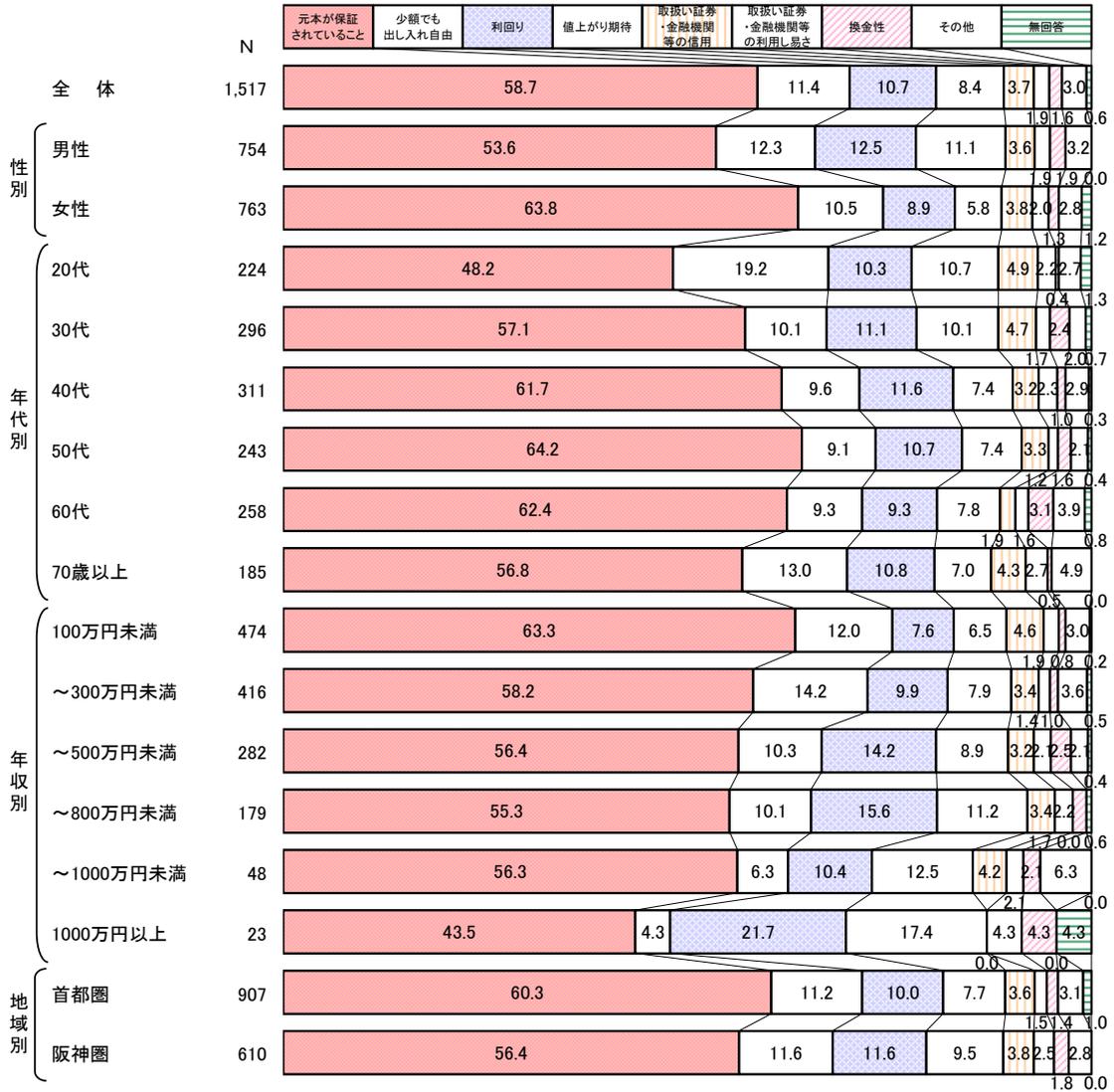
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層では大きな差はみられない。

問 25 【資産の運用方針(単数回答)／時系列】

	N	元本が保証 されていること	少額でも 出し入れ自由	利回り	値上がり期待	取扱い証券・ 金融機関 等の信用	取扱い証券・ 金融機関等 の利用し易さ	換金性	その他	無回答
平成26年	1,517	58.7				11.4	10.7	8.4	3.7	3.0
平成25年	1,515	57.7				11.0	10.5	9.4	4.2	2.9
平成23年	1,509	58.0				10.4	10.3	6.9	4.7	3.6
平成22年	1,514	56.1				16.9	10.8	5.7	4.6	2.9
平成20年	1,507	54.6				14.7	12.9	6.2	4.3	3.8

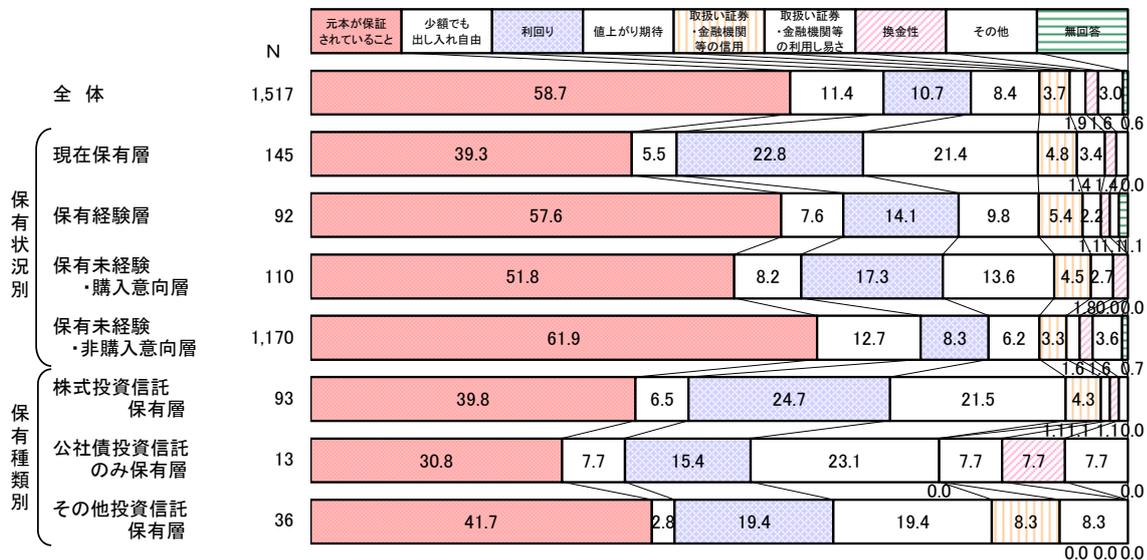
問 25 【資産の運用方針(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 25 【資産の運用方針(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 現在保有している金融商品と今後購入対象として考えている金融商品

① 現在保有している金融商品

現在保有している金融商品は、「普通預貯金」が 82.3%で特に高い。以下、「ゆうちょ銀行の定額貯金」(40.6%)、「定期預金」(34.5%)の順に続く。「株式」(14.2%)と「貯蓄型保険」(11.3%)の保有率は10%台であるが、これら以外の保有率は10%に満たない。「国内の投資信託」は8.4%、「外国で作られた投資信託」は4.2%が保有している。

時系列でみると、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、女性は「ゆうちょ銀行の定額貯金」と「定期預金」の保有率が男性より高いが、男性は「株式」と「財形貯蓄」保有率が女性を上回る。

年代別では、20代は「普通預貯金」以外の商品の保有率が低く、保有商品の広がりが小さい。「普通預貯金」以外の商品の保有率は年代が上がるにつれて高くなるものが多く、高齢層ほど多様な金融商品を保有する傾向がみられる。ただし、「貯蓄型保険」は50代が最も高く、「財形貯蓄」は30～50代が主な保有層となっている。

年収別にみると、「普通預貯金」は“500万円以上”の比較的高い年収層では、年収が高いほど保有率が低くなる傾向がみられる。一方、「定期預金」「株式」「財形貯蓄」の保有率は年収が高いほど高くなる傾向がみられ、年収が高いほど保有している金融商品の幅が広がる様子がうかがえる。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層の金融商品保有率は「国内の投資信託」が 87.6%で最も高い。この層は「株式」と「外国で作られた投資信託」をほぼ半数が保有し(順に 51.7%、43.4%)、「外貨預金」(17.9%)も他の層に比べて高く、現在保有層は多様な種類の商品を保有している。保有経験層では、「貯蓄型保険」と「国債・公債・社債・転換社債」は現在保有層と同程度の保有率(ともに約 20%)であり、「株式」保有率(28.3%)も現在保有層に次いで高い。保有未経験層は購入意向層、非購入意向層ともに預貯金以外の金融商品の保有率は低いが、購入意向層は非購入意向層に比べ「定期預金」と「株式」の保有率は高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「普通預貯金」「株式」「国内の投資信託」の保有率がその他投資信託保有層よりも高い。その他投資信託保有層は「貯蓄型保険」と「外国で作られた投資信託」の保有率が株式投資信託保有層より高い。

問 27【現在保有している金融商品(重複回答)／時系列】

	N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定額 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	国内の 投資 信託	財形 貯蓄	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外国で 作られた 投資 信託	外貨 預金	変額 年金	金貯蓄 口座	外国 債券	外国為 替証拠 金取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
平成26年	1,517	82.3	40.6	34.5	14.2	11.3	8.4	8.0	4.9	4.2	3.4	1.7	1.3	1.1	0.5	0.3	0.0	2.0	1.9
平成25年	1,515	80.7	41.5	34.9	14.4	11.7	7.2	7.3	4.7	3.8	4.1	1.8	1.3	1.5	0.9	0.3	0.1	2.6	2.6
平成23年	1,509	83.4	39.8	34.2	15.8	12.5	7.9	8.0	5.0	4.0	4.4	2.4	1.2	1.5	0.8	0.1	0.0	1.5	2.5
平成22年	1,514	86.2	43.1	38.8	15.1	12.5	8.7	8.9	6.3	4.2	4.3	1.5	1.3	1.8	0.5	0.1	0.0	0.6	1.8
平成20年	1,507	85.5	46.2	39.1	14.1	15.3	10.2	8.5	6.8	4.7	3.5	2.3	1.1	2.4	-	0.4	-	0.9	1.3

※ 平成22年より「ラップ口座・SMA」「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。

問 27【現在保有している金融商品(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	国内の 投資 信託	財形 貯蓄	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外国で 作られた 投資 信託	外貨 預金	変額 年金	金貯蓄 口座	外国 債券	外国為 替証拠 金取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
性別	全体	1,517	82.3	40.6	34.5	14.2	11.3	8.4	8.0	4.9	4.2	3.4	1.7	1.3	1.1	0.5	0.3	0.0	2.0	1.9
	男性	754	80.4	36.2	32.1	19.4	9.7	9.8	11.0	4.6	4.1	3.8	1.7	1.1	1.2	0.4	0.4	0.0	2.7	1.6
	女性	763	84.3	45.0	36.8	9.2	12.8	6.9	5.0	5.2	4.2	3.0	1.7	1.4	0.9	0.7	0.3	0.0	1.4	2.2
年代別	20代	224	83.5	28.6	19.2	2.2	2.7	0.0	2.2	0.9	0.0	0.9	1.3	0.4	0.0	0.9	0.0	0.0	2.2	1.3
	30代	296	84.5	33.1	33.1	9.8	10.5	5.1	10.5	1.4	2.0	4.4	0.7	0.7	0.3	0.7	0.0	0.0	2.4	1.7
	40代	311	80.7	37.0	32.5	17.4	13.2	6.4	12.5	2.9	2.9	4.2	2.3	1.0	1.3	0.3	0.3	0.0	2.9	2.3
	50代	243	82.3	45.7	39.9	19.8	18.1	10.7	12.8	6.6	8.6	3.3	0.8	1.6	2.1	0.0	0.8	0.0	1.6	2.5
	60代	258	83.3	49.2	46.9	15.9	12.4	12.8	3.9	9.7	5.8	4.7	3.5	2.3	1.2	0.4	0.8	0.0	0.8	2.7
	70歳以上	185	78.9	54.6	34.1	21.1	9.2	17.8	2.7	10.3	6.5	2.2	1.6	1.6	1.6	1.1	0.0	0.0	2.2	0.5
	100万円未満	474	82.7	42.4	32.1	8.9	12.9	6.1	4.0	3.8	3.6	2.3	1.7	0.4	0.6	0.8	0.0	0.0	1.3	2.3
～300万円未満	416	84.9	41.3	29.6	8.9	8.4	6.7	2.9	5.5	3.4	1.9	1.4	1.4	1.4	0.2	0.7	0.0	2.6	1.9	
～500万円未満	282	83.7	41.1	39.7	15.6	11.7	9.2	9.2	4.6	2.8	5.0	2.1	1.4	0.7	0.7	0.4	0.0	1.8	0.4	
～800万円未満	179	78.8	38.0	39.7	25.7	14.5	16.2	22.9	6.1	7.3	6.7	2.2	1.1	1.7	0.6	0.6	0.0	1.7	0.6	
～1000万円未満	48	70.8	41.7	47.9	43.8	18.8	12.5	27.1	6.3	4.2	6.3	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	
1000万円以上	23	82.6	34.8	56.5	43.5	13.0	8.7	34.8	8.7	13.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	
地域別	首都圏	907	80.8	39.1	32.4	15.1	10.6	9.2	8.5	6.2	4.3	3.6	1.9	1.1	1.1	0.3	0.4	0.0	2.0	2.5
	阪神圏	610	84.6	42.8	37.5	13.0	12.3	7.2	7.2	3.1	3.9	3.1	1.5	1.5	1.0	0.8	0.2	0.0	2.1	1.0

問 27【現在保有している金融商品(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	貯蓄型 保険	国内の 投資 信託	財形 貯蓄	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外国で 作られた 投資 信託	外貨 預金	変額 年金	金貯蓄 口座	外国 債券	外国為 替証拠 金取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
保有 状況 別	全体	1,517	82.3	40.6	34.5	14.2	11.3	8.4	8.0	4.9	4.2	3.4	1.7	1.3	1.1	0.5	0.3	0.0	2.0	1.9
	現在保有層	145	73.1	43.4	53.8	51.7	22.1	87.6	11.7	18.6	43.4	17.9	4.8	5.5	7.6	2.1	2.8	0.0	0.0	0.0
	保有経験層	92	77.2	55.4	51.1	28.3	20.7	0.0	5.4	20.7	0.0	5.4	4.3	0.0	2.2	1.1	0.0	0.0	1.1	3.3
	保有未経験 ・購入意向層	110	82.7	38.2	41.8	19.1	13.6	0.0	13.6	4.5	0.0	7.3	2.7	1.8	0.9	0.9	0.0	0.0	0.9	0.0
保有未経験 ・非購入意向層	1,170	83.8	39.3	30.1	8.0	9.0	0.0	7.2	2.1	0.0	1.1	1.0	0.8	0.2	0.3	0.1	0.0	2.5	2.2	
保有 種類 別	株式投資信託 保有層	93	78.5	44.1	52.7	62.4	17.2	100.0	10.8	16.1	40.9	19.4	6.5	7.5	8.6	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0
	公社債投資信託 のみ保有層	13	76.9	53.8	53.8	30.8	30.8	100.0	15.4	38.5	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
	その他投資信託 保有層	36	61.1	38.9	61.1	30.6	33.3	55.6	11.1	19.4	66.7	16.7	2.8	2.8	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0

②保有金融商品総額

現在の保有金融商品総額については、「100万円未満」が38.8%、「100万～300万円未満」が19.5%であり、「300万円未満」が58.3%と過半数を占める。一方、「1000万円以上」は9.7%に過ぎない。平均保有額は411.2万円である。

時系列でみると、「300万円未満」の比率は平成20年以降微増傾向が続いている。平均保有額は前回17.7万円増えたが、今回は前回に比べ32.8万円減っており、多少の増減がみられる。

対象者属性別にみると、性別では、構成比・平均保有額ともに大きな差はみられない。

年代別では、年代が上がるにつれて平均保有額が上がる傾向がみられ、20代は平均が101.4万円に過ぎないが、60代以上では700万円台となっている。各年代間の差をみると、20～30代の間は約150万円と大きいが、30～40代の間は約60万円と小さく、40代～50代の間では200万円弱、50～60代の間は250万円強であり、差が大きくなっている。ただし、60代と70歳以上の間では約50万円と小幅ながら減額している。

年収別では、年収が高いほど平均保有額は高くなり、年収「100万円未満」の層の平均保有額が309.1万円に対し、年収「～1000万円未満」の層の保有額は平均706.5万円にのぼる。平均保有額の各層の間をみると、年収「～800万円未満」までの層は約60～90万円ずつ増えているが、「～800万円未満」と「～1000万円未満」の層の間は約170万円と大幅に増えている点に注目できる。

地域別では、構成比・平均保有額ともに大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では保有金融商品総額の低い層から高い層まで分布が広がっているものの、「1000万円以上」が約30%を占め、平均保有額も954.3万円と高い。保有経験層も平均保有額は775.3万円と高いが、現在保有層に比べると約180万円低い。保有未経験・購入意向層は平均保有額が409.6万円、保有未経験・非購入意向層(平均312.3万円)に比べると約100万円高いが、保有経験層に比べると約350万円低く、投資信託の保有経験の有無による差は大きい。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層の平均保有額は910.1万円であり、その他投資信託保有層の平均保有額1002.8万円より約90万円低い。

問28【保有金融商品総額(単数回答)／時系列】

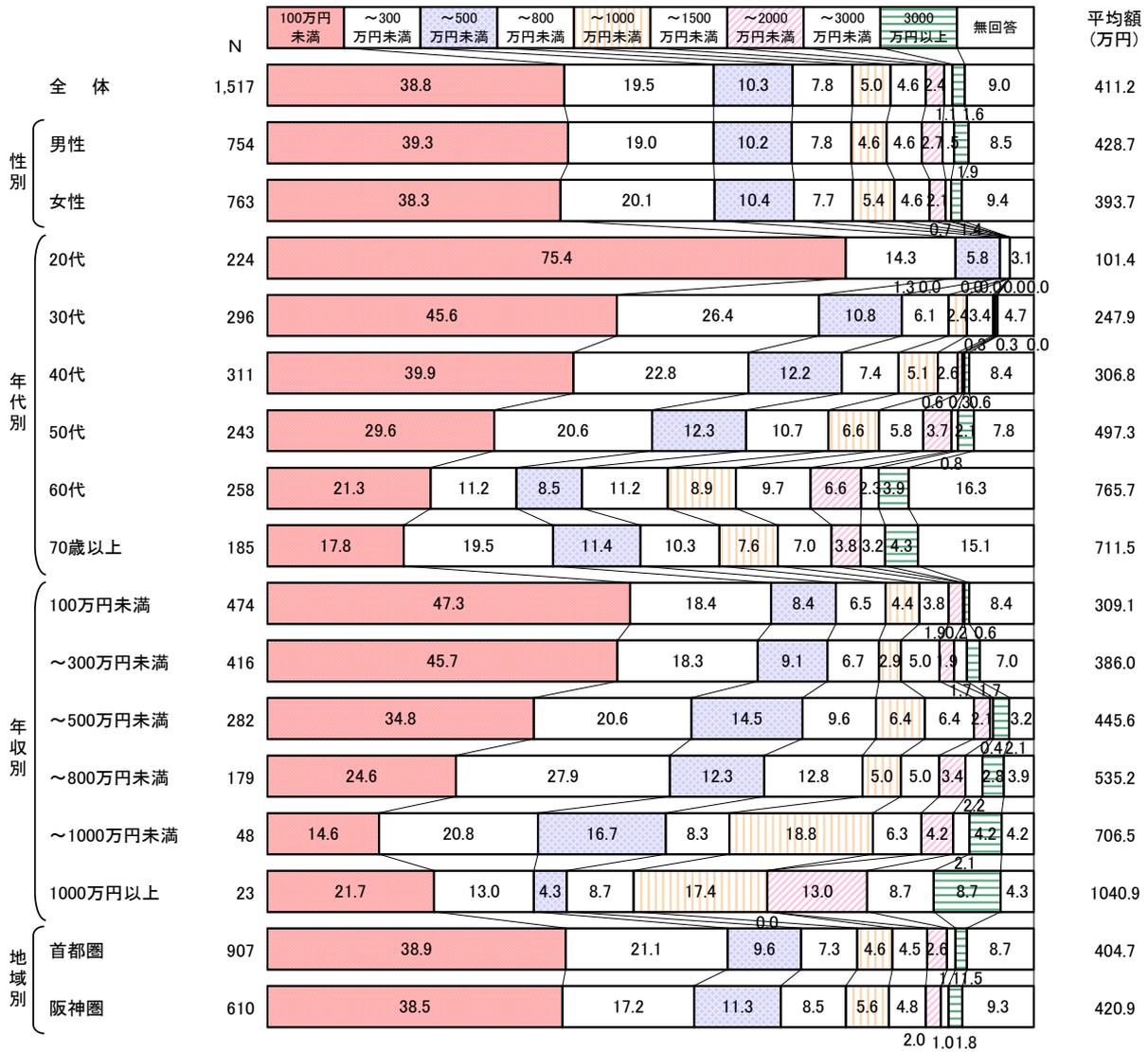
	N	100万円未満	～300万円未満	～500万円未満	～800万円未満	～1000万円未満	～1500万円未満	～2000万円未満	～3000万円未満	3000万円以上	無回答	平均額(万円)
平成26年	1,517	38.8			19.5	10.3	7.8	5.0	4.6	2.4	9.0	411.2
平成25年	1,515	37.0			19.7	11.6	7.7	4.5	3.6	2.6	9.2	444.0
平成23年	1,509	35.5			20.6	10.6	8.9	5.0	3.1		10.5	426.3
平成22年	1,514	35.1			20.1	12.0	8.7	4.8	4.2		9.0	439.9
平成20年	1,507	31.1			20.7	11.9	14.8	3.8	2.7		10.9	(471.3)

※ 平成22年より「～800万円未満」を追加。

()は、平均値算出のための選択肢の値の与え方が平成22年以降とは異なるため参考値。

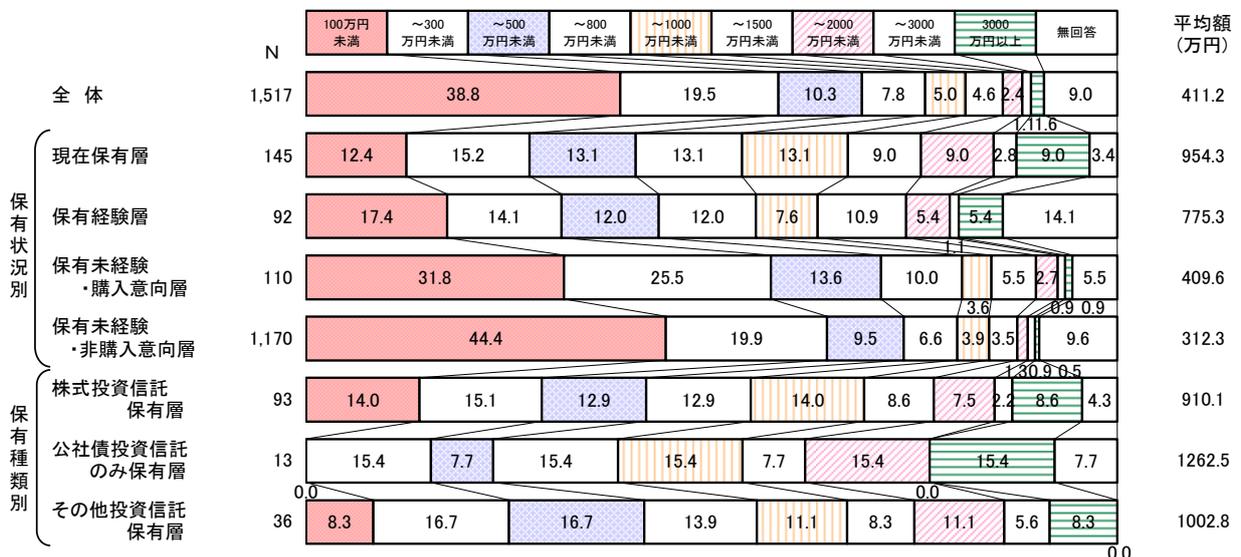
問 28 【保有金融商品総額(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 28 【保有金融商品総額(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③今後購入対象として考えている金融商品

今後購入対象として考えている金融商品(追加投資、増額を含む)は、「普通預貯金」が44.0%で特に高く、次いで「ゆうちょ銀行の定期預金」(33.5%)と「定期預金」(32.9%)が同程度で並ぶ。「株式」は15.7%であるが、それ以外の商品は10%に満たず、「国内の投資信託」は4.6%、「外国で作られた投資信託」は1.6%にとどまる。

時系列でみると、いずれの商品とも前回と比べて大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「株式」への関心が女性より高く、女性は「ゆうちょ銀行の定期預金」と「定期預金」への関心が男性より高い。

年代別では、20代は「普通預貯金」への関心がやや高いが、「ゆうちょ銀行の定期預金」への関心はやや低い。30代は「定期預金」への関心が高く、「ゆうちょ銀行の定期預金」への関心を上回る。70歳以上では「定期預金」への関心は低い。「株式」への関心は40～50代を中心とした層でやや高い。

年収別では、「普通預貯金」や「ゆうちょ銀行の定期預金」への関心は“500万円以上”の比較的年収が高い層では低くなる傾向がみられる。一方、「株式」は年収が高くなるほど関心度が高くなる傾向があり、高年収層では多様な金融商品への関心が高い。「財形貯蓄」への関心は「～800万円未満」の層から、「国債・公債・社債・転換社債」「貯蓄型保険」への関心は「～10000万円未満」の層からやや高くなっている。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層は「国内の投資信託」をさらに購入しようと考えている人が33.8%みられ、「外国で作られた投資信託」「外国債券」への関心も他の層より高く、多様な商品に関心を持っている。保有未経験・購入意向層は「株式」「外貨預金」への関心が現在保有層と同程度に高く、保有経験層を上回っている。「国債・公債・社債・転換社債」への関心は現在保有層、保有経験層、保有未経験・購入意向層が同程度である。保有未経験・購入意向層では「財形貯蓄」(10.9%)と「外国為替証拠金取引(FX)」(7.3%)への関心が他層と比較してやや高く、「国内の投資信託」への関心は9.1%みられる。保有未経験・非購入意向層では、預貯金以外の商品への関心度は低く、金融商品の関心領域としては貯蓄性商品が中心となっている。

投資信託保有種類別では、その他投資信託保有層は「外国で作られた投資信託」への関心が株式投資信託保有層と比べ高い。

問 29 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／時系列】

	N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 預金	定期 預金	株式	財形 貯蓄	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	貯蓄型 保険	国内の 投資 信託	外貨 預金	外国で 作られた 投資 信託	金貯蓄 口座	変額 年金	外国為 替証拠 金取引 (FX)	外国 債券	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
平成26年	1,517	44.0	33.5	32.9	15.7	5.7	5.6	5.6	4.6	4.4	1.6	1.6	1.4	1.1	0.9	0.5	0.1	6.6	4.5
平成25年	1,515	46.5	36.2	32.8	14.8	6.0	5.7	7.7	4.5	5.2	1.7	1.3	0.9	1.1	1.3	0.0	0.0	7.1	3.4
平成23年	1,509	48.4	32.4	32.1	11.5	5.6	5.1	5.5	3.7	5.5	2.5	1.3	0.9	1.8	1.7	0.4	0.0	5.7	5.6
平成22年	1,514	60.3	42.6	41.9	13.1	7.1	6.5	7.9	4.0	5.4	1.8	1.9	0.9	1.2	1.5	0.4	0.1	3.0	3.3
平成20年	1,507	-	49.8	49.2	12.1	8.6	8.0	9.0	6.0	6.7	3.0	1.9	1.7	-	2.7	0.5	-	2.3	6.3

※ 平成22年より「普通預貯金」「外国為替証拠金取引(FX)」「ラップ口座・SMA」を追加。

問 29 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	財形 貯蓄	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	貯蓄型 保険	国内の 投資 信託	外貨 預金	外国で 作られた 投資 信託	金貯蓄 口座	変額 年金	外国為 替証拠 金取引 (FX)	外国 債券	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
性別	全体	1,517	44.0	33.5	32.9	15.7	5.7	5.6	5.6	4.6	4.4	1.6	1.6	1.4	1.1	0.9	0.5	0.1	6.6	4.5
	男性	754	43.0	28.9	30.0	23.3	7.3	7.4	5.3	5.4	5.6	1.7	1.6	1.5	1.6	0.9	0.8	0.1	6.8	4.1
	女性	763	45.0	38.0	35.8	8.1	4.2	3.8	5.9	3.8	3.1	1.4	1.7	1.3	0.5	0.9	0.1	0.0	6.4	4.8
年代別	20代	224	49.1	28.1	29.5	12.9	6.7	4.0	3.6	2.7	5.4	0.4	1.3	1.3	2.2	0.4	0.4	0.0	4.5	4.0
	30代	296	41.9	30.1	38.5	15.2	7.1	4.1	6.4	3.4	4.7	1.7	1.0	2.0	1.0	0.7	1.0	0.0	6.8	2.4
	40代	311	41.5	34.4	33.8	19.0	8.4	6.1	6.8	3.2	6.4	1.0	2.3	2.3	1.0	1.3	0.6	0.0	6.4	3.5
	50代	243	42.0	37.0	33.3	19.8	8.2	7.0	7.8	7.8	4.5	4.1	2.5	0.8	0.8	1.2	0.0	0.0	5.8	3.7
	60代	258	45.0	36.8	33.3	12.4	1.2	4.3	5.0	5.8	2.7	0.8	1.2	1.2	0.8	1.2	0.4	0.0	9.7	5.0
	70歳以上	185	46.5	34.6	25.4	13.5	1.1	9.2	2.7	5.4	1.1	1.6	1.6	0.0	0.5	0.5	0.0	0.5	5.9	10.3
	年収別	100万円未満	474	45.8	35.7	32.3	8.2	5.1	3.2	5.3	3.2	2.5	1.1	1.3	1.5	0.4	0.8	0.0	0.0	6.8
～300万円未満	416	46.6	35.6	31.5	10.1	2.9	4.8	5.5	4.1	2.6	1.0	1.7	1.4	0.2	0.5	0.7	0.0	6.3	4.8	
～500万円未満	282	46.1	36.5	37.2	21.3	5.3	7.8	5.7	5.7	7.4	1.8	1.4	1.8	3.2	0.7	1.1	0.0	6.0	1.1	
～800万円未満	179	40.2	26.8	34.1	29.1	14.0	7.3	6.7	7.8	8.4	4.5	2.2	1.1	1.1	2.2	0.0	0.6	5.0	1.1	
～1000万円未満	48	29.2	29.2	39.6	43.8	12.5	14.6	12.5	8.3	8.3	2.1	2.1	2.1	2.1	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	
1000万円以上	23	47.8	30.4	47.8	34.8	13.0	17.4	8.7	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	4.3	
地域別	首都圏	907	43.9	31.9	32.6	16.9	6.3	6.6	5.6	4.1	5.5	1.5	2.0	1.4	1.0	0.9	0.4	0.0	6.4	3.7
	阪神圏	610	44.1	35.9	33.3	13.9	4.9	4.1	5.6	5.4	2.6	1.6	1.1	1.3	1.1	1.0	0.5	0.2	6.9	5.6

問 29 【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

		N	普通 預貯金	ゆうちょ 銀行の 定期 貯金	定期 預金	株式	財形 貯蓄	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	貯蓄型 保険	国内の 投資 信託	外貨 預金	外国で 作られた 投資 信託	金貯蓄 口座	変額 年金	外国為 替証拠 金取引 (FX)	外国 債券	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
全体		1,517	44.0	33.5	32.9	15.7	5.7	5.6	5.6	4.6	4.4	1.6	1.6	1.4	1.1	0.9	0.5	0.1	6.6	4.5
保有状況別	現在保有層	145	31.0	26.9	38.6	33.8	5.5	12.4	4.8	33.8	10.3	13.8	4.1	2.1	1.4	6.9	0.7	0.0	3.4	3.4
	保有経験層	92	34.8	33.7	34.8	25.0	6.5	15.2	5.4	5.4	3.3	0.0	2.2	2.2	3.3	0.0	1.1	1.1	5.4	5.4
	保有未経験 ・購入意向層	110	36.4	33.6	36.4	39.1	10.9	18.2	4.5	9.1	10.9	3.6	3.6	0.0	7.3	0.9	0.9	0.0	2.7	2.7
	保有未経験 ・非購入意向層	1,170	47.0	34.3	31.7	10.5	5.2	2.8	5.8	0.5	3.1	0.0	1.1	1.4	0.3	0.3	0.3	0.0	7.4	4.7
保有種類別	株式投資信託 保有層	93	32.3	26.9	36.6	36.6	6.5	9.7	4.3	34.4	7.5	9.7	4.3	2.2	0.0	6.5	1.1	0.0	4.3	4.3
	公社債投資信託 のみ保有層	13	38.5	38.5	46.2	38.5	7.7	15.4	0.0	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他投資信託 保有層	36	27.8	22.2	44.4	25.0	2.8	19.4	8.3	38.9	16.7	27.8	5.6	2.8	5.6	8.3	0.0	0.0	2.8	2.8

(3) 希望する投資信託商品と購入方法(投資信託購入検討者)

①今後購入を考える投資信託の商品

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後投資信託への新規投資または追加投資(増額)を考える場合の商品内容について尋ねたところ、「安定した利回りを目標とするもの(値下がりのリスクは少々なら良い)」が45.7%で最も多くを占め、次いで「極力元本が安全であるもの(利回りは小さくても良い)」が30.9%となっている。「比較的高い分配が期待できるもの(値下がりのリスクがあっても良い)」と「値上がりの期待が持てるもの(値下がりのリスクがあっても良い)」はともに約10%となっており(順に12.3%、9.9%)、これらを合わせた“リスク容認派”は22.2%を占める。

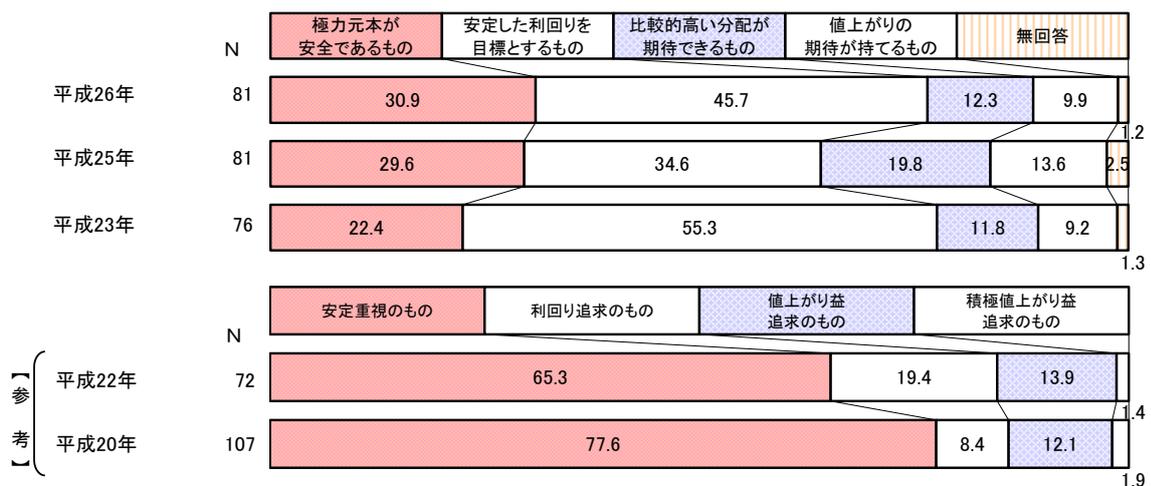
時系列でみると、「安定した利回りを目標とするもの」は前回大きく減少したが、今回は増加して半分ほど戻っている。“リスク容認派”の比率は前回増加したが、今回ほぼ、前々回のレベルに戻った。

対象者属性別にみると、性別では、男性は“リスク容認派”比率が女性より高い。

地域別では、阪神圏は「極力元本が安全であるもの」が、首都圏よりもやや高い。

問 29-1【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)

／時系列－投資信託購入検討者ベース】



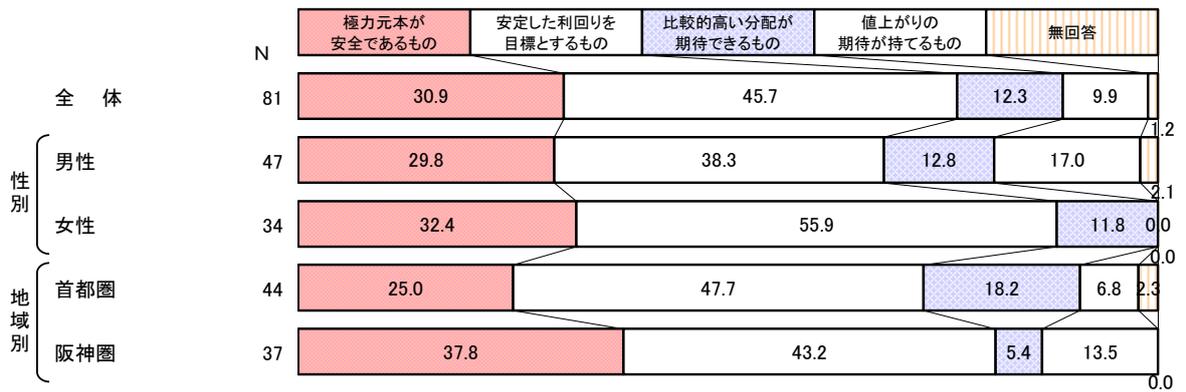
※ 平成23年からの選択肢の内容は下記のとおり

1. 極力元本が安全であるもの(利回りは小さくても良い)
2. 安定した利回りを目標とするもの(値下がりのリスクは少々なら良い)
3. 比較的高い分配が期待できるもの(値下がりのリスクがあっても良い)
4. 値上がりの期待が持てるもの(値下がりのリスクがあっても良い)

問 29-1 【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)】

／対象者属性別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	極力元本が安全であるもの	安定した利回りを目標とするもの	比較的高い分配が期待できるもの	値上がりの期待が持てるもの	無回答
全体	81 100.0	25 30.9	37 45.7	10 12.3	8 9.9	1 1.2
年代別	20代	6 100.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	-
	30代	14 100.0	6 42.9	5 35.7	2 14.3	1 7.1
	40代	12 100.0	1 8.3	5 41.7	2 16.7	4 33.3
	50代	23 100.0	7 30.4	11 47.8	4 17.4	1 4.3
	60代	15 100.0	5 33.3	8 53.3	-	1 6.7
	70歳以上	11 100.0	3 27.3	6 54.5	1 9.1	1 9.1
	年収別	100万円未満	17 100.0	5 29.4	10 58.8	2 11.8
~300万円未満		19 100.0	12 63.2	4 21.1	1 5.3	2 10.5
~500万円未満		18 100.0	4 22.2	10 55.6	4 22.2	-
~800万円未満		19 100.0	4 21.1	7 36.8	2 10.5	5 26.3
~1000万円未満		4 100.0	-	3 75.0	1 25.0	-
1000万円以上		1 100.0	-	1 100.0	-	-

問 29-1 【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)】

／保有状況・保有種類別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	極力元本が安全であるもの	安定した利回りを目標とするもの	比較的高い分配が期待できるもの	値上がりの期待が持てるもの	無回答
全体	81 100.0	25 30.9	37 45.7	10 12.3	8 9.9	1 1.2
保有状況別	現在保有層	58 100.0	14 24.1	28 48.3	8 13.8	7 12.1
	保有経験層	5 100.0	1 20.0	3 60.0	-	1 20.0
	保有未経験・購入意向層	12 100.0	6 50.0	4 33.3	2 16.7	-
	保有未経験・非購入意向層	6 100.0	4 66.7	2 33.3	-	-
	株式投資信託保有層	36 100.0	7 19.4	18 50.0	6 16.7	4 11.1
保有種類別	公社債投資信託のみ保有層	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0
	その他投資信託保有層	19 100.0	6 31.6	10 52.6	2 10.5	1 5.3

②投資信託の購入意向商品(投資信託購入検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後投資信託への新規投資または追加投資(増額)を考える場合の商品の種類を尋ねたところ、「国内株式に主に投資する投資信託」(42.0%)、「国内債券に主に投資する投資信託」(37.0%)、「外国債券に主に投資する投資信託」(35.8%)、「様々な資産に投資する投資信託」(27.2%)、「外国株式に主に投資する投資信託」(21.0%)、「不動産投信(J-R E I T)」(19.8%)、「不動産投信に主に投資する投資信託」(16.0%)の順となっている。これら以外の商品の購入意向は10%未満にとどまる。

時系列でみると、「国内株式に主に投資する投資信託」が前回より11.1ポイント上昇した。「外国債券に主に投資する投資信託」は前回下がったが、今回は前々回のレベルに戻った。

対象者属性別でみると、性別では、大きな差はみられない。

地域別でも、大きな差はみられない。

問 29-2【投資信託の購入意向商品(重複回答)／時系列－投資信託購入検討者ベース】

	N	国内株式に 主に投資する 投資信託	国内債券に 主に投資する 投資信託	外国債券に 主に投資する 投資信託	様々な 資産に 投資する 投資信託	外国株式に 主に投資する 投資信託	不動産投信	不動産投信に 主に投資する 投資信託	外国で 作られた 投資信託	ETF	その他	無回答
平成26年	81	42.0	37.0	35.8	27.2	21.0	19.8	16.0	7.4	4.9	1.2	1.2
平成25年	81	30.9	44.4	21.0	27.2	19.8	14.8	17.3	6.2	3.7	1.2	2.5
平成23年	76	30.3	32.9	38.2	27.6	21.1	5.3	9.2	7.9	7.9	1.3	1.3
平成22年	72	29.2	44.4	44.4	23.6	22.2	4.2	5.6	2.8	4.2	2.8	0.0
平成20年	107	30.8	29.9	29.9	27.1	17.8	5.6	4.7	10.3	4.7	4.7	1.9

問 29-2 【投資信託の購入意向商品(重複回答)／対象者属性別—投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	国内株式に主に投資する投資信託	国内債券に主に投資する投資信託	外国債券に主に投資する投資信託	様々な資産に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投信	不動産投信に主に投資する投資信託	外国で作られた投資信託	ETF	その他	無回答
全体	81	42.0	37.0	35.8	27.2	21.0	19.8	16.0	7.4	4.9	1.2	1.2
性別	男性	44.7	38.3	36.2	27.7	23.4	14.9	19.1	2.1	6.4	2.1	2.1
	女性	38.2	35.3	35.3	26.5	17.6	26.5	11.8	14.7	2.9	0.0	0.0
地域別	首都圏	47.7	43.2	34.1	29.5	22.7	25.0	13.6	6.8	6.8	2.3	2.3
	阪神圏	35.1	29.7	37.8	24.3	18.9	13.5	18.9	8.1	2.7	0.0	0.0

(上段:N)(下段:%)

	全体	国内株式に主に投資する投資信託	国内債券に主に投資する投資信託	外国債券に主に投資する投資信託	様々な資産に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投信	不動産投信に主に投資する投資信託	外国で作られた投資信託	ETF	その他	無回答
全体	81 100.0	34 42.0	30 37.0	29 35.8	22 27.2	17 21.0	16 19.8	13 16.0	6 7.4	4 4.9	1 1.2	1 1.2
年代別	20代	6 100.0	3 50.0	5 83.3	3 50.0	1 16.7	1 16.7	-	-	-	-	-
	30代	14 100.0	4 28.6	3 21.4	5 35.7	2 14.3	5 35.7	5 35.7	2 14.3	-	2 14.3	-
	40代	12 100.0	3 25.0	3 25.0	4 33.3	4 33.3	4 33.3	2 16.7	3 25.0	2 16.7	1 8.3	-
	50代	23 100.0	11 47.8	9 39.1	10 43.5	7 30.4	4 17.4	6 26.1	3 13.0	1 4.3	1 4.3	-
	60代	15 100.0	8 53.3	7 46.7	5 33.3	6 40.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7	-	-	-
	70歳以上	11 100.0	5 45.5	3 27.3	2 18.2	2 18.2	2 18.2	2 18.2	4 36.4	2 18.2	-	1 9.1
	100万円未満	17 100.0	6 35.3	7 41.2	7 41.2	5 29.4	4 23.5	5 29.4	1 5.9	2 11.8	1 5.9	-
~300万円未満	19 100.0	8 42.1	10 52.6	3 15.8	6 31.6	2 10.5	1 5.3	3 15.8	1 5.3	-	1 5.3	
~500万円未満	18 100.0	6 33.3	5 27.8	9 50.0	4 22.2	4 22.2	4 22.2	4 22.2	1 5.6	1 5.6	-	
~800万円未満	19 100.0	9 47.4	4 21.1	8 42.1	6 31.6	6 31.6	5 26.3	4 21.1	1 5.3	2 10.5	-	
~1000万円未満	4 100.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	-	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	-	-	
1000万円以上	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	

問 29-2 【投資信託の購入意向商品(重複回答)／保有状況・保有種類別

—投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	国内株式に主に投資する投資信託	国内債券に主に投資する投資信託	外国債券に主に投資する投資信託	様々な資産に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投信	不動産投信に主に投資する投資信託	外国で作られた投資信託	ETF	その他	無回答
全体	81 100.0	34 42.0	30 37.0	29 35.8	22 27.2	17 21.0	16 19.8	13 16.0	6 7.4	4 4.9	1 1.2	1 1.2
保有状況別	現在保有層	58 100.0	23 39.7	15 25.9	23 39.7	19 32.8	12 20.7	12 20.7	10 17.2	6 10.3	3 5.2	1 1.7
	保有経験層	5 100.0	3 60.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	-	-	1 20.0	-	-	-
	保有未経験層	12 100.0	6 50.0	7 58.3	5 41.7	2 16.7	4 33.3	2 16.7	1 8.3	-	1 8.3	-
	・購入意向層	6 100.0	2 33.3	6 100.0	-	-	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-	-
	・非購入意向層	6 100.0	2 33.3	6 100.0	-	-	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-	-
保有種類別	株式投資信託保有層	36 100.0	16 44.4	10 27.8	14 38.9	11 30.6	7 19.4	7 19.4	5 13.9	3 8.3	1 2.8	1 2.8
	公社債投資信託のみ保有層	2 100.0	2 100.0	1 50.0	-	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	-
	その他投資信託保有層	19 100.0	5 26.3	4 21.1	9 47.4	6 31.6	4 21.1	5 26.3	4 21.1	3 15.8	2 10.5	-
	その他投資信託保有層	19 100.0	5 26.3	4 21.1	9 47.4	6 31.6	4 21.1	5 26.3	4 21.1	3 15.8	2 10.5	-

③投資信託の情報取得に利用したい方法(投資信託購入検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、投資信託についての情報を得るのに利用したい方法を尋ねたところ、「証券会社等で説明を受け資料請求する」と「インターネットで調べる」の2項目が高い(ともに48.1%)。次いで「新聞・雑誌・テレビ等を見たり聞いたりする」(28.4%)が高いが、他の方法は10%程度に過ぎない。

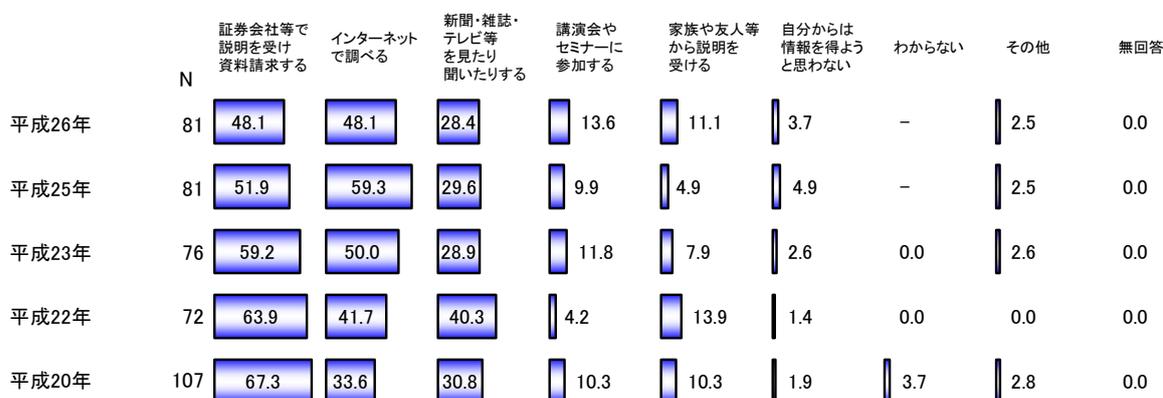
時系列で見ると、「インターネットで調べる」は平成20年以降上昇傾向が続いたが、今回は止まっている。一方、「証券会社等で説明を受け資料請求する」は下降傾向が続いている。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「インターネットで調べる」が女性より高い。

地域別では、首都圏は「インターネットで調べる」が阪神圏に比べ高い。阪神圏は「家族や友人等から説明を受ける」が首都圏よりやや高い。

問 29-3【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／時系列－投資信託購入検討者ベース

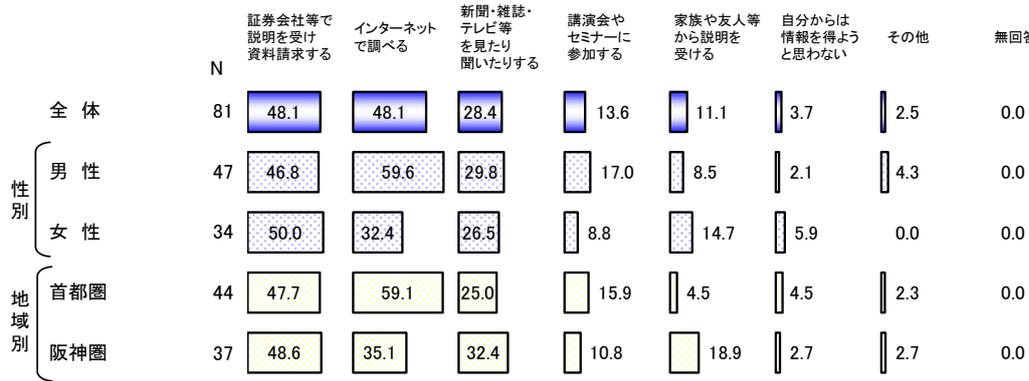


※ 平成25年より「わからない」を削除。

問 29-3 【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／対象者属性別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全体	証券会社等で説明を受け資料請求する	インターネットで調べる	新聞・雑誌・テレビ等を見たり聞いたりする	講演会やセミナーに参加する	家族や友人等から説明を受ける	自分からは情報を得ようと思わない	その他	無回答
全体	81 100.0	39 48.1	39 48.1	23 28.4	11 13.6	9 11.1	3 3.7	2 2.5	-
年代別									
20代	6 100.0	2 33.3	4 66.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	-	-	-
30代	14 100.0	5 35.7	7 50.0	4 28.6	2 14.3	3 21.4	1 7.1	-	-
40代	12 100.0	3 25.0	8 66.7	3 25.0	1 8.3	-	-	2 16.7	-
50代	23 100.0	14 60.9	15 65.2	5 21.7	-	2 8.7	1 4.3	-	-
60代	15 100.0	8 53.3	4 26.7	5 33.3	3 20.0	2 13.3	-	-	-
70歳以上	11 100.0	7 63.6	1 9.1	4 36.4	4 36.4	-	1 9.1	-	-
年収別									
100万円未満	17 100.0	10 58.8	8 47.1	5 29.4	-	1 5.9	1 5.9	-	-
～300万円未満	19 100.0	7 36.8	7 36.8	5 26.3	1 5.3	4 21.1	1 5.3	-	-
～500万円未満	18 100.0	10 55.6	6 33.3	6 33.3	5 27.8	2 11.1	1 5.6	-	-
～800万円未満	19 100.0	8 42.1	13 68.4	5 26.3	5 26.3	2 10.5	-	-	-
～1000万円未満	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-	-	-	2 50.0	-
1000万円以上	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-

問 29-3 【投資信託の情報取得に利用したい方法(重複回答)】

／保有状況・保有種類別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全体	証券会社等で説明を受け資料請求する	インターネットで調べる	新聞・雑誌・テレビ等を見たり聞いたりする	講演会やセミナーに参加する	家族や友人等から説明を受ける	自分からは情報を得ようと思わない	その他	無回答
全体	81 100.0	39 48.1	39 48.1	23 28.4	11 13.6	9 11.1	3 3.7	2 2.5	-
保有状況別									
現在保有層	58 100.0	31 53.4	26 44.8	18 31.0	8 13.8	6 10.3	1 1.7	2 3.4	-
保有経験層	5 100.0	2 40.0	2 40.0	-	-	-	1 20.0	-	-
保有未経験層	12 100.0	2 16.7	8 66.7	5 41.7	3 25.0	2 16.7	-	-	-
・購入意向層	6 100.0	4 66.7	3 50.0	-	-	1 16.7	1 16.7	-	-
・非購入意向層	6 100.0	4 66.7	3 50.0	-	-	1 16.7	1 16.7	-	-
保有種類別									
株式投資信託保有層	36 100.0	17 47.2	19 52.8	15 41.7	3 8.3	3 8.3	1 2.8	1 2.8	-
公社債投資信託のみ保有層	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	2 100.0	-	-	-	-
その他投資信託保有層	19 100.0	13 68.4	6 31.6	3 15.8	2 10.5	3 15.8	-	1 5.3	-

④今後新たに投資信託を購入する場所(投資信託購入検討者)

今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、今後新たに投資信託を購入する際の場所を尋ねたところ、「証券会社の店頭(電話注文を含む)」(40.7%)が最も高く、「銀行の店頭(電話注文を含む)」(33.3%)、「証券会社のインターネット取引」(25.9%)、「銀行のインターネット取引」(14.8%)の順となっている。「投資信託会社(直販)」は8.6%、「確定拠出年金及び財形貯蓄」は4.9%にとどまる。現在の購入場所と比べると(P24 参照)、「インターネット取引」の利用意向率は「証券会社」「銀行」とも現在の利用率を上回っており、今後の利用率の高まりが期待される。

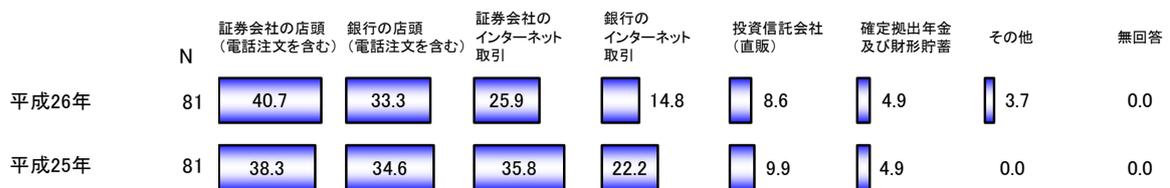
時系列でみると、「証券会社のインターネット取引」の希望が前回よりやや低くなった。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「証券会社のインターネット取引」の希望が女性より高い。

地域別では、大きな差はみられない。

問 29-4【今後新たに投資信託を購入する場所(重複回答)】

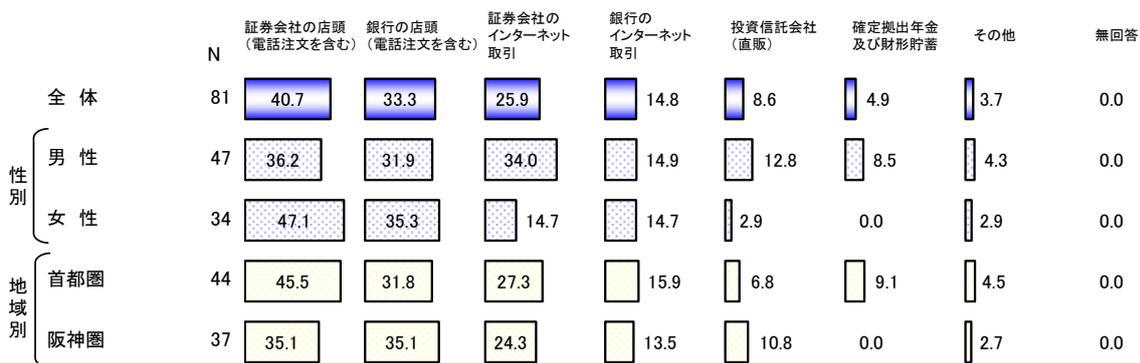
／時系列－投資信託購入検討者ベース】



問 29-4 【今後新たに投資信託を購入する場所(重複回答)】

／対象者属性別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全 体	証券会社 の店頭 (電話注文 を含む)	銀行の店頭 (電話注文 を含む)	証券会社の インターネット 取引	銀行の インターネット 取引	投資信託会社 (直販)	確定拠出年金 及び財形貯蓄	その他	無回答
全 体	81 100.0	33 40.7	27 33.3	21 25.9	12 14.8	7 8.6	4 4.9	3 3.7	-
年代別									
20代	6 100.0	1 16.7	1 16.7	4 66.7	2 33.3	1 16.7	-	-	-
30代	14 100.0	4 28.6	4 28.6	6 42.9	3 21.4	-	1 7.1	-	-
40代	12 100.0	1 8.3	4 33.3	3 25.0	1 8.3	1 8.3	2 16.7	2 16.7	-
50代	23 100.0	11 47.8	6 26.1	7 30.4	4 17.4	2 8.7	1 4.3	-	-
60代	15 100.0	8 53.3	7 46.7	1 6.7	2 13.3	1 6.7	-	-	-
70歳以上	11 100.0	8 72.7	5 45.5	-	-	2 18.2	-	1 9.1	-
年収別									
100万円未満	17 100.0	7 41.2	6 35.3	3 17.6	3 17.6	-	-	-	-
～300万円未満	19 100.0	8 42.1	8 42.1	2 10.5	2 10.5	1 5.3	-	1 5.3	-
～500万円未満	18 100.0	8 44.4	7 38.9	7 38.9	1 5.6	3 16.7	1 5.6	1 5.6	-
～800万円未満	19 100.0	7 36.8	4 21.1	7 36.8	5 26.3	3 15.8	1 5.3	-	-
～1000万円未満	4 100.0	1 25.0	2 50.0	-	-	-	2 50.0	1 25.0	-
1000万円以上	1 100.0	-	-	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-

問 29-4 【今後新たに投資信託を購入する場所(重複回答)】

／保有状況・保有種類別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	証券会社 の店頭 (電話注文 を含む)	銀行の店頭 (電話注文 を含む)	証券会社の インターネット 取引	銀行の インターネット 取引	投資信託会社 (直販)	確定拠出年金 及び財形貯蓄	その他	無回答
全 体	81 100.0	33 40.7	27 33.3	21 25.9	12 14.8	7 8.6	4 4.9	3 3.7	-
保有状況別									
現在保有層	58 100.0	26 44.8	21 36.2	12 20.7	8 13.8	4 6.9	3 5.2	2 3.4	-
保有経験層	5 100.0	3 60.0	-	1 20.0	1 20.0	-	-	1 20.0	-
保有未経験 ・購入意向層	12 100.0	3 25.0	4 33.3	6 50.0	2 16.7	1 8.3	-	-	-
保有未経験 ・非購入意向層	6 100.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-
保有種類別									
株式投資信託 保有層	36 100.0	16 44.4	13 36.1	8 22.2	7 19.4	1 2.8	2 5.6	-	-
公社債投資信託 のみ保有層	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-
その他投資信託 保有層	19 100.0	8 42.1	7 36.8	3 15.8	1 5.3	1 5.3	-	2 10.5	-

⑤投資信託の保有期間(投資信託購入検討者)

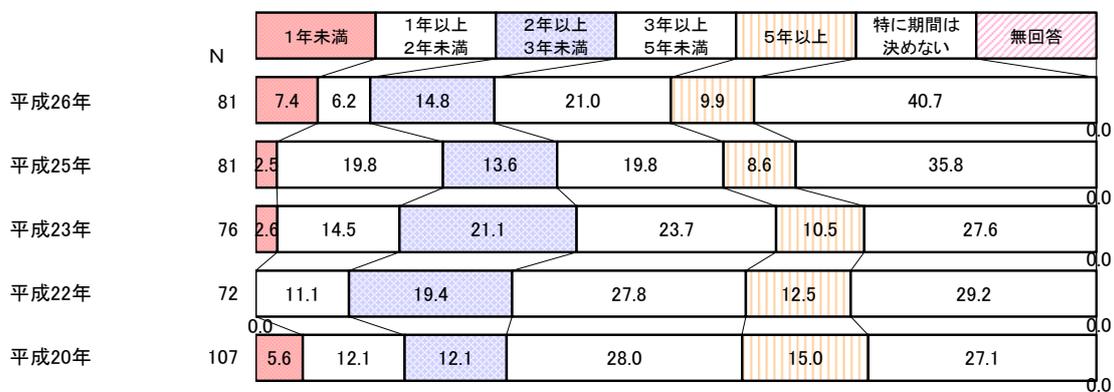
今後の取引対象として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対し、投資信託を購入する場合の保有期間を尋ねたところ、「特に期間は決めない」が40.7%と最も多くを占める。具体的な期間としては、「3年以上5年未満」(21.0%)が最も高く、次いで「2年以上3年未満」(14.8%)が高い。

時系列でみると、「特に期間は決めない」は平成23年以降上昇傾向がみられる。“2年未満”の短期を希望する率も平成22年以降上昇傾向がみられたが、今回は前回より低下した。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「特に期間は決めない」が女性よりやや高い。地域別では、大きな差はみられない。

問 29-5 【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)／時系列

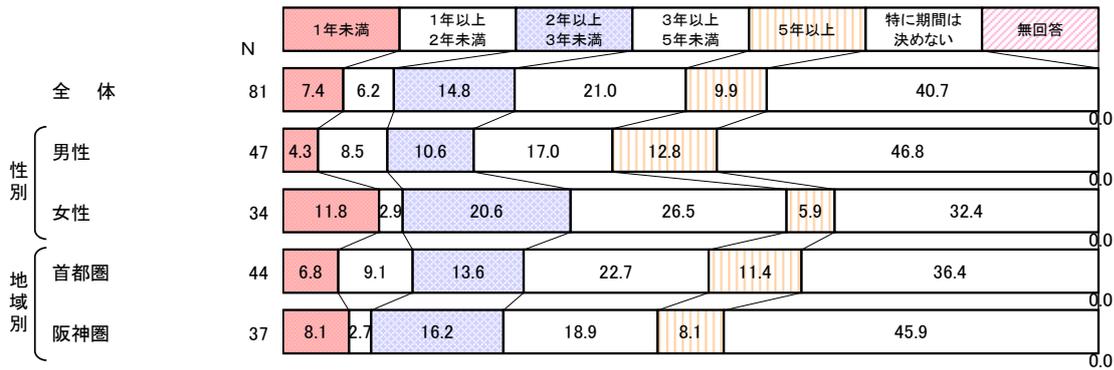
－投資信託購入検討者ベース】



問 29-5【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)

／対象者属性別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(上段:N)(下段:%)

	全 体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない	無回答
全 体	81 100.0	6 7.4	5 6.2	12 14.8	17 21.0	8 9.9	33 40.7	-
年代別	20代	6 100.0	-	1 16.7	-	1 16.7	-	4 66.7
	30代	14 100.0	2 14.3	1 7.1	-	4 28.6	3 21.4	4 28.6
	40代	12 100.0	-	1 8.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	8 66.7
	50代	23 100.0	3 13.0	1 4.3	3 13.0	8 34.8	2 8.7	6 26.1
	60代	15 100.0	1 6.7	-	4 26.7	3 20.0	2 13.3	5 33.3
	70歳以上	11 100.0	-	1 9.1	4 36.4	-	-	6 54.5
	年 収 別	100万円未満	17 100.0	1 5.9	1 5.9	3 17.6	2 11.8	1 5.9
～300万円未満		19 100.0	2 10.5	1 5.3	5 26.3	4 21.1	2 10.5	5 26.3
～500万円未満		18 100.0	1 5.6	2 11.1	2 11.1	4 22.2	1 5.6	8 44.4
～800万円未満		19 100.0	1 5.3	-	2 10.5	6 31.6	4 21.1	6 31.6
～1000万円未満		4 100.0	-	1 25.0	-	-	-	3 75.0
1000万円以上		1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-

問 29-5【今後投資信託を購入する場合の希望保有期間(単数回答)

／保有状況・保有種別別－投資信託購入検討者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	特に期間は 決めない	無回答
全 体	81 100.0	6 7.4	5 6.2	12 14.8	17 21.0	8 9.9	33 40.7	-
保有状況別	現在保有層	58 100.0	2 3.4	3 5.2	9 15.5	12 20.7	6 10.3	26 44.8
	保有経験層	5 100.0	1 20.0	-	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	保有未経験 ・購入意向層	12 100.0	1 8.3	2 16.7	2 16.7	2 16.7	1 8.3	4 33.3
	保有未経験 ・非購入意向層	6 100.0	2 33.3	-	-	2 33.3	-	2 33.3
	株式投資信託 保有層	36 100.0	2 5.6	1 2.8	5 13.9	5 13.9	5 13.9	18 50.0
保有種別別	公社債投資信託 のみ保有層	2 100.0	-	-	1 50.0	-	-	1 50.0
	その他投資信託 保有層	19 100.0	-	2 10.5	3 15.8	7 36.8	1 5.3	6 31.6

(4) 資産運用に関する話題の登場頻度

資産運用について知人・友人、会社等で話題になる頻度としては、「よく話題になる」は1.0%に過ぎないが、「たまに話題になる」は20.2%であり、これらを合わせると“話題になる率”は21.2%である。一方、「話題になることはない」は67.8%と高く、「資産運用の話題は他人にしたいくない」という人も10.5%みられる。

時系列でみると、平成23年以降大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は資産運用が“話題になる率”が女性より高い。

年代別では、“話題になる率”は20代では10%未満と低いが、年代が上がるほど高くなる傾向がみられ、60代で最も高い(27.2%)。「資産運用の話題は他人にしたいくない」は50代以上で年代が上がるにつれ高くなり、70歳以上では16.8%となっている。

年収別では、年収が高いほど“話題になる率”が高くなる傾向がみられ、「～1000万円未満」の層では3人に1人にのぼる(33.4%)。

地域別では、首都圏は「話題になることはない」が阪神圏に比べ高い。

投資信託保有状況別でみると、資産運用が“話題になる率”は現在保有層だけでなく、保有未経験・購入意向層も40%台であり、保有経験層も32.6%であるが、保有未経験・非購入意向層では15.6%と低い。これは保有未経験・非購入意向層では「話題になることはない」が74.6%と特に高いためである。「資産運用の話題は他人にしたいくない」比率は現在保有層(16.6%)や保有経験層(20.7%)より保有未経験の各層(ともに10%未満)の方が低い。

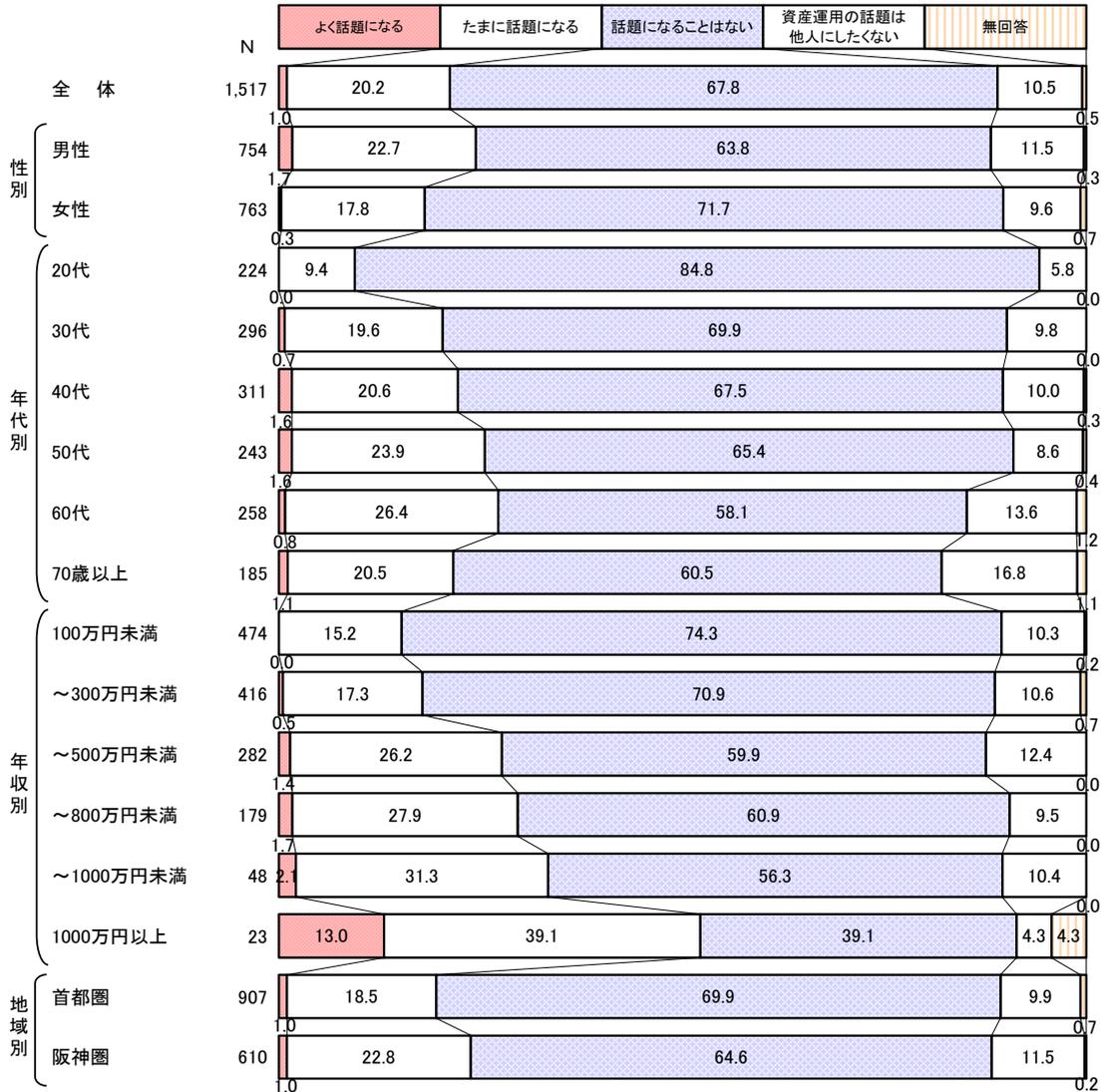
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層で大きな差はみられない。

問 26 【資産運用について知人・友人、会社等で話題になるか(単数回答)／時系列】

	N	よく話題になる	たまに話題になる	話題になることはない	資産運用の話題は他人にしたいくない	無回答
平成26年	1,517	1.0	20.2	67.8	10.5	0.5
平成25年	1,515	1.8	19.9	67.3	10.8	0.3
平成23年	1,509	2.0	19.9	68.5	9.5	0.2
平成22年	1,514	1.1	25.1	62.9	10.8	0.0

問 26 【資産運用について知人・友人、会社等で話題になるか(単数回答)／対象者属性別】

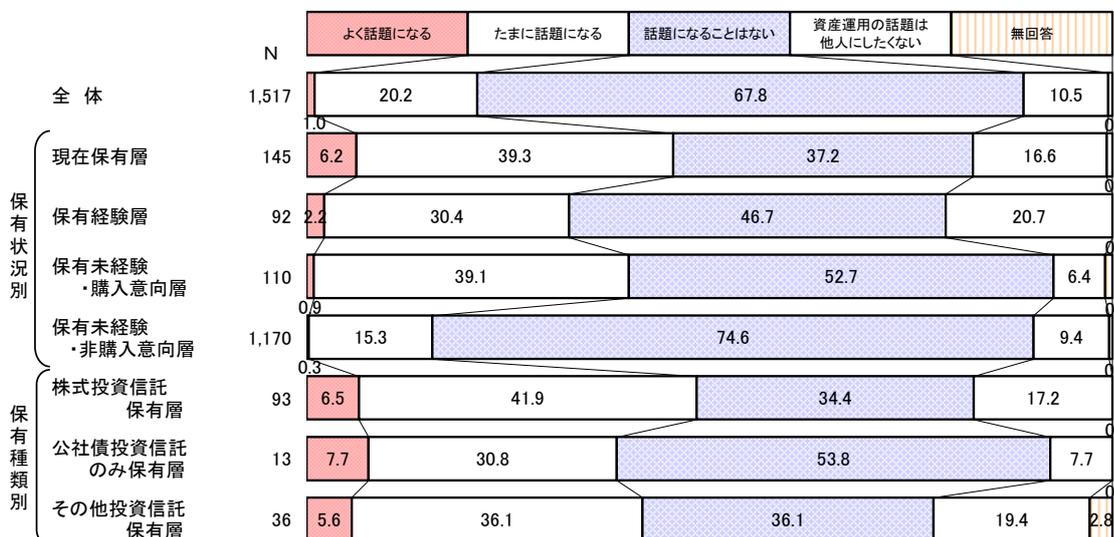
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 26 【資産運用について知人・友人、会社等で話題になるか(単数回答)

／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(5) 金融商品や投資に関する情報源

現在、金融商品や投資に関する情報を得ているのは、「新聞」(27.0%)と「テレビ」(26.2%)が並んで高く、次いで「インターネット」(17.5%)が続く。これら以外の情報源は5%未満と低い。なお、「特に情報は得ていない」が49.8%を占めており、金融商品や投資に関して何かしらの情報収集をしているのは、ほぼ半数であることがわかる。

時系列でみると、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「新聞」や「インターネット」の利用率が女性に比べ高い。女性は「特に情報は得ていない」が男性より高い。

年代別では、「新聞」利用率は若年層ほど低くなる傾向がみられる。「インターネット」利用率は50代以下では約20%であるが、60代以上では10%未満と低い。「テレビ」はいずれの年代にもよく利用されているが、それ以外では若年層は「インターネット」、高年齢層は「新聞」というように情報源の違いが大きいことがわかる。なお、「特に情報は得ていない」は50代で38.7%と最も低いが、若年層ほど高くなり、20代では59.8%と特に高い。

年収別では、「新聞」と「インターネット」の利用率はともに年収が高いほど高くなる傾向がみられる。一方、「特に情報は得ていない」率は年収が低い層ほど高い。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、「新聞」利用率は現在保有層、保有経験層ではともに50%台に対し、保有未経験・購入意向層では36.4%に下がり、保有未経験・非購入意向層では20.9%と特に低い。「インターネット」利用率は現在保有層だけでなく、保有未経験・購入意向層でも約40%と高いが、保有経験層では20.7%に下がり、保有未経験・非購入意向層では12.6%に過ぎない。「テレビ」の利用率は保有未経験・購入意向層が39.1%で最も高い。現在保有層は「マネー系の雑誌」(17.2%)や「セミナーや講演会」(6.9%)の利用率も他の層より高い。なお、「特に情報は得ていない」率は保有未経験・非購入意向層では58.1%と特に高いが、保有未経験・購入意向層では20.0%と保有経験層(27.2%)を下回って現在保有層(19.3%)と同程度となっており、多方面から情報収集している様子が見えてくる。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「インターネット」の利用率がその他投資信託保有層に比べ高い。

問 35 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／時系列】

	N	新聞	テレビ	インターネット	クチコミ	マネー系の雑誌	FPなどの専門家	SNS	ラジオ	セミナーや講演会	その他の雑誌	その他	特に情報は得ていない	無回答
平成26年	1,517	27.0	26.2	17.5	4.4	4.2	2.5	2.2	1.9	1.4	0.5	2.6	49.8	0.9
平成25年	1,515	28.8	29.6	20.8	5.3	3.9	2.4	1.8	1.4	1.2	0.9	2.2	46.7	0.1
平成23年	1,509	27.0	26.1	20.2	6.2	3.4	2.4	-	1.3	1.0	0.7	2.4	50.1	0.3
平成22年	1,514	32.0	30.0	17.1	6.0	3.3	1.9	-	1.5	1.5	0.8	2.3	48.2	0.1

※ 平成25年より「SNS」を追加。

問 35 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	新聞	テレビ	インター ネット	クチコミ	マネー系 の雑誌	FPなどの 専門家	SNS	ラジオ	セミナー や講演会	その他 の雑誌	その他	特に情報は 得ていない	無回答
全体	1,517	27.0	26.2	17.5	4.4	4.2	2.5	2.2	1.9	1.4	0.5	2.6	49.8	0.9
性別														
男性	754	32.8	25.6	23.6	4.2	6.4	2.8	2.9	3.3	2.0	0.8	2.4	43.5	1.1
女性	763	21.2	26.9	11.4	4.6	2.1	2.2	1.4	0.5	0.8	0.3	2.8	56.0	0.8
年代別														
20代	224	8.5	22.8	18.3	5.4	2.2	2.2	5.8	0.4	0.9	0.0	1.3	59.8	0.4
30代	296	15.5	22.0	19.6	5.1	4.4	1.0	2.0	1.7	1.0	0.0	3.0	55.4	0.7
40代	311	27.7	29.3	23.5	5.1	4.8	3.2	1.6	0.3	1.9	0.6	1.9	46.9	1.0
50代	243	40.7	32.9	22.2	4.1	6.2	3.7	2.5	2.9	0.0	1.2	2.1	38.7	0.4
60代	258	32.2	25.2	9.7	3.1	3.5	2.7	0.4	3.5	1.6	0.4	3.5	51.2	1.6
70歳以上	185	41.1	24.9	7.6	3.2	3.8	2.2	1.1	3.2	3.2	1.1	3.8	45.9	1.6
年収別														
100万円未満	474	19.4	26.6	11.6	3.6	1.7	1.9	1.9	0.8	0.2	0.0	1.9	57.2	0.6
～300万円未満	416	25.5	26.2	14.4	3.8	3.1	2.4	1.0	2.6	1.2	0.2	1.9	52.4	1.4
～500万円未満	282	32.6	27.7	20.6	6.4	5.7	3.2	3.9	3.5	3.2	0.7	2.8	43.6	0.7
～800万円未満	179	34.6	27.9	31.3	5.0	8.4	1.7	3.4	0.6	1.7	1.1	3.4	38.0	0.0
～1000万円未満	48	50.0	25.0	39.6	4.2	10.4	4.2	4.2	2.1	4.2	4.2	8.3	18.8	2.1
1000万円以上	23	52.2	30.4	26.1	8.7	13.0	8.7	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	34.8	4.3
地域別														
首都圏	907	26.5	26.1	18.2	4.6	4.7	2.0	2.5	1.7	1.5	0.7	2.1	51.5	0.9
阪神圏	610	27.7	26.4	16.4	4.1	3.4	3.3	1.6	2.3	1.1	0.3	3.3	47.2	1.0

問 35 【金融商品や投資に関する情報源(重複回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	新聞	テレビ	インター ネット	クチコミ	マネー系 の雑誌	FPなどの 専門家	SNS	ラジオ	セミナー や講演会	その他 の雑誌	その他	特に情報は 得ていない	無回答
全体	1,517	27.0	26.2	17.5	4.4	4.2	2.5	2.2	1.9	1.4	0.5	2.6	49.8	0.9
保有状況別														
現在保有層	145	53.1	25.5	36.6	6.2	17.2	8.3	4.1	4.1	6.9	0.7	9.7	19.3	1.4
保有経験層	92	52.2	26.1	20.7	7.6	8.7	7.6	3.3	1.1	1.1	1.1	3.3	27.2	1.1
保有未経験 ・購入意向層	110	36.4	39.1	40.9	9.1	10.9	7.3	5.5	1.8	2.7	0.0	6.4	20.0	0.0
保有未経験 ・非購入意向層	1,170	20.9	25.1	12.6	3.5	1.6	0.9	1.5	1.7	0.6	0.5	1.3	58.1	0.9
保有種類別														
株式投資信託 保有層	93	54.8	28.0	40.9	6.5	18.3	7.5	3.2	3.2	5.4	1.1	8.6	14.0	2.2
公社債投資信託 のみ保有層	13	46.2	30.8	30.8	0.0	30.8	7.7	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0	30.8	0.0
その他投資信託 保有層	36	55.6	19.4	25.0	8.3	11.1	8.3	2.8	5.6	8.3	0.0	16.7	27.8	0.0

(6) 最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方

最近の景気を踏まえた資産運用やリスクへの考え方としては、「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」が 26.5%で最も高い。次いで「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」が 11.5%であり、これら以外の項目は3～6%と低い。また、「特にない・わからない」が 59.8%を占め、明確な方針を持っている人は半数に満たない。

時系列でも、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」が女性より高く、女性は「特にない・わからない」が高い。

年代別では、「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」は40～50代は高いが、20～30代は低く、「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」も50代が最も高い。「特にない・わからない」は50代が最も低い谷型となっており、20代が70.5%で最も高い。つまり、50代は明確な方針を持っている人が多いが、若年層ほど方針を持っている人が少ないことがわかる。

年収別では、「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」と「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」は年収が高いほど高くなる傾向がみられ、「～1000万円未満」の層では前者は43.8%、後者も35.4%と特に高い。「特にない・わからない」は“300万円未満”の年収層では約65%と高いが、年収が高いほど下がっており、高年収層ほど何らかの方針を持つ比率が高いことがわかる。

地域別では大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層は「リターンが少なくとも元本保証があるものを選びたい」と「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」がともに40%台と高く、「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」「投信は長期保有なので景気等は気にしていない」もともに約20%、「今が株式や投資信託購入のチャンスだと思う」も13.8%となっており、トップ項目以外は他の層より高い。保有経験層と保有未経験・購入意向層は、ほぼ全ての項目が同程度で並んでおり、保有未経験・購入意向層は保有経験層と同様に積極的な方針を持っているとみられる。ただし、「投信は長期保有なので景気等は気にしていない」は保有未経験・購入意向層の方が保有経験層に比べてやや高い。一方、保有未経験・非購入意向層は「特にない・わからない」が70.6%と特に高く、大半が運用やリスクの方針を持っていない。

投資信託保有種類別でみると、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層では大きな差はみられない。

問 34 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)／時系列】

	N	リターンが 少なくとも 元本保証がある ものを選びたい	資産は いろいろな 種類の金融商品 に分散させたい	元本割れ リスクのある 商品の保有を 減らしたい	投信は 長期保有なので 景気等は 気にしていない	今が株式や 投信購入の チャンスだと思う	その他	特にない ・わからない	無回答
平成26年	1,517	26.5	11.5	5.9	4.3	3.0	1.3	59.8	0.8
平成25年	1,515	28.1	11.8	8.1	3.6	4.8	1.1	58.4	0.7
平成23年	1,509	27.4	10.1	6.5	3.0	4.9	1.0	59.6	0.3
平成22年	1,514	29.4	10.4	7.5	2.4	6.3	0.8	58.9	0.3

問 34 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)】

／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	リターンが 少なくとも 元本保証がある ものを選びたい	資産は いろいろな 種類の金融商品 に分散させたい	元本割れ リスクのある 商品の保有を 減らしたい	投信は 長期保有なので 景気等は 気にしていない	今が株式や 投信購入の チャンスだと思う	その他	特にな い・わ からない	無回答
全体	1,517	26.5	11.5	5.9	4.3	3.0	1.3	59.8	0.8
性別									
男性	754	27.6	15.1	6.2	5.4	4.2	1.7	54.5	1.2
女性	763	25.4	8.0	5.5	3.1	1.7	0.8	65.0	0.4
年代別									
20代	224	17.4	7.1	5.8	1.3	2.7	0.9	70.5	0.4
30代	296	21.3	9.8	4.1	4.1	1.4	1.0	65.5	1.0
40代	311	31.2	10.9	5.8	3.2	3.2	0.6	55.6	0.6
50代	243	34.6	16.9	4.9	3.7	3.3	1.2	51.0	0.4
60代	258	27.1	10.9	8.1	6.6	3.5	1.9	59.3	1.2
70歳以上	185	26.5	14.6	7.0	7.6	4.3	2.2	56.8	1.1
年収別									
100万円未満	474	22.6	8.9	5.1	1.5	1.7	0.8	67.5	0.2
～300万円未満	416	23.6	7.0	5.8	3.8	2.6	1.2	65.6	1.2
～500万円未満	282	30.9	14.5	6.4	6.7	3.5	1.8	53.9	1.1
～800万円未満	179	34.1	18.4	6.7	6.7	5.6	1.7	44.7	0.0
～1000万円未満	48	43.8	35.4	10.4	8.3	2.1	2.1	27.1	2.1
1000万円以上	23	30.4	21.7	4.3	4.3	13.0	0.0	39.1	4.3
地域別									
首都圏	907	26.9	11.8	5.8	4.3	3.4	1.2	60.2	0.9
阪神圏	610	25.9	11.1	5.9	4.3	2.3	1.3	59.2	0.7

問 34 【最近の景気等を踏まえた資産運用やリスクについての考え方(重複回答)】

／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	リターンが 少なくとも 元本保証がある ものを選びたい	資産は いろいろな 種類の金融商品 に分散させたい	元本割れ リスクのある 商品の保有を 減らしたい	投信は 長期保有なので 景気等は 気にしていない	今が株式や 投信購入の チャンスだと思う	その他	特にな い・わ からない	無回答
全体	1,517	26.5	11.5	5.9	4.3	3.0	1.3	59.8	0.8
保有状況別									
現在保有層	145	41.4	42.8	20.7	21.4	13.8	2.1	16.6	0.7
保有経験層	92	43.5	25.0	15.2	3.3	5.4	1.1	29.3	0.0
保有未経験 ・購入意向層	110	40.0	30.9	12.7	10.0	6.4	1.8	27.3	0.9
保有未経験 ・非購入意向層	1,170	22.1	4.8	2.6	1.7	1.1	1.1	70.6	0.9
保有種類別									
株式投資信託 保有層	93	40.9	41.9	21.5	18.3	18.3	3.2	16.1	1.1
公社債投資信託 のみ保有層	13	53.8	53.8	15.4	38.5	0.0	0.0	23.1	0.0
その他投資信託 保有層	36	38.9	41.7	19.4	25.0	8.3	0.0	13.9	0.0

8. 少額投資非課税制度(NISA)(全体)

(1) NISAの認知状況

「少額投資非課税制度(NISA:ニーサ)」については、「名前も内容も知っている」が16.7%、「名前は知っているが、内容までは知らない」が44.1%であり、これらを合わせた“認知率”は60.8%と過半数を占める。

対象者属性別にみると、性別では、「名前も内容も知っている」比率は男性の方が高いが、“認知率”には大きな差はみられない。

年代別では、“認知率”は50代で74.1%と最も高く、この層を中心とした山型となっている。最も低いのは20代であるが、半数(48.7%)が“認知”している。また、「名前も内容も知っている」比率は50代以上では20~25%の同程度で並んでいる。

年収別でみると、「名前も内容も知っている」比率は年収が高いほど高くなる傾向がみられるが、「名前は知っているが、内容までは知らない」比率は年収による差が小さい。この結果、“認知率”も年収が高いほど高くなっており、「~1000万円未満」の層では77.1%にのぼる。

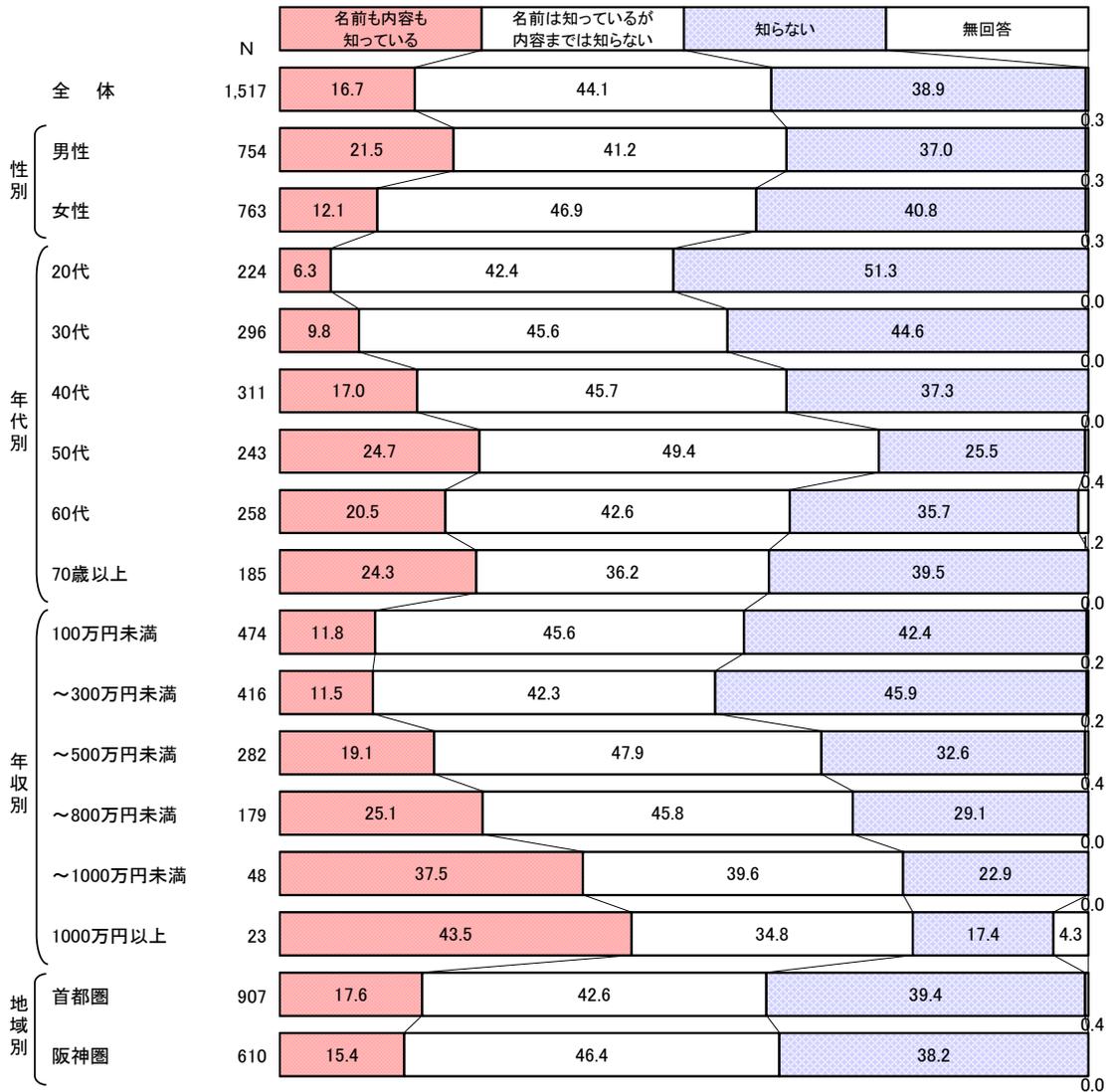
地域別では、“認知率”に大きな差はみられない。

投資信託保有状況別にみると、“認知率”は現在保有層では91.7%にのぼり、最も高い。次いで保有経験層(85.9%)、保有未経験・購入意向層(79.1%)の順に続き、保有未経験・非購入意向層は最も低いながらも、半数(53.4%)が認知している。これは主に「名前も内容も知っている」比率の差によるものであり、現在保有層では過半数(59.3%)を占めるのに対し、保有未経験・非購入意向層では10%を下回る。

投資信託保有種類別では、“認知率”は株式投資信託保有層とその他投資信託保有層で大きな差はみられない。

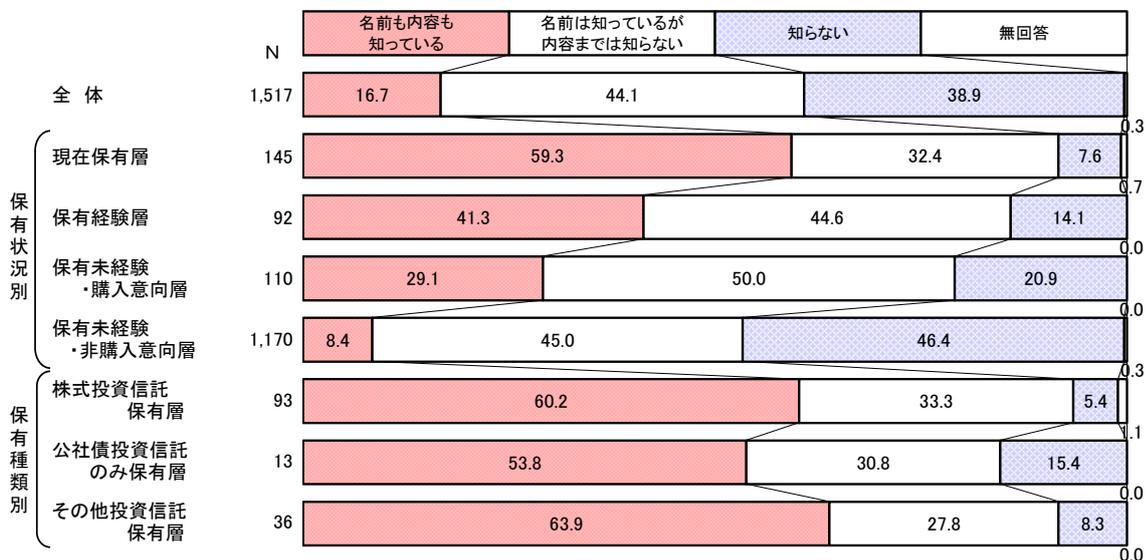
問 37【N I S A 認知状況(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 37【N I S A 認知状況(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 「NISA口座」開設状況(NISA認知者)

「少額投資非課税制度(NISA:ニーサ)」の認知者に対し、「NISA口座」を開設しているか尋ねたところ、「開設している」=開設率は13.1%にとどまる。

対象者属性別でみると、性別では、開設率に大きな差はみられない。

年代別では、開設率は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、70歳以上では27.7%が開設している。

年収別では、開設率に大きな差はみられない。

地域別でも、開設率に大きな差はみられない。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層では半数(49.6%)が「NISA口座」を開設している。保有経験層でも22.8%が開設しているが、保有未経験・購入意向層は12.6%、保有未経験・非購入意向層では4.2%に過ぎない。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は半数(54.0%)が開設しており、その他投資信託保有層(39.4%)より高い。

問 37-1 【「NISA口座」開設状況(単数回答)／対象者属性別－NISA認知者ベース】

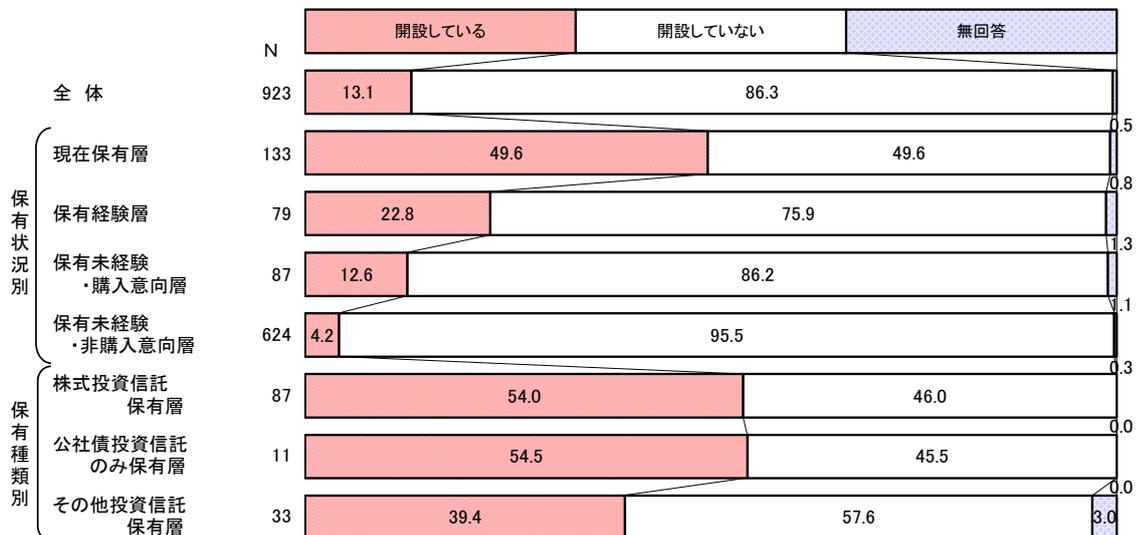
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 37-1 【「NISA口座」開設状況(単数回答)

／保有状況・保有種類別－NISA認知者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(3) 「NISA口座」で購入している金融商品(NISA口座開設者)

「少額投資非課税制度(NISA:ニーサ)」の口座を開設している人に対し、「NISA口座」で購入している金融商品を尋ねたところ、「株式」が43.8%で最も高い。次いで「株式投資信託」が26.4%であるが、他の商品の購入率は10%に満たない。

対象者属性別にみると、性別では、男性は「株式」の購入率が女性よりやや高い。

地域別では、首都圏は「株式」の購入率が阪神圏に比べやや高いが、阪神圏は「株式投資信託」の購入率が首都圏よりやや高い。「その他」の購入率も首都圏の方が高い。

年代別、年収別、投資信託保有状況別、投資信託保有種類別は、サンプル数が少ないため、コメントを割愛する。

問 37-2【「NISA口座」で購入している金融商品(重複回答)

／対象者属性別－NISA口座開設者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	株 式	株式投資信託	不動産投信	ETF	その他	無回答	
全 体	121 100.0	53 43.8	32 26.4	8 6.6	1 0.8	32 26.4	5 4.1	
性 別	男 性	67 100.0	33 49.3	16 23.9	5 7.5	1 1.5	16 23.9	2 3.0
	女 性	54 100.0	20 37.0	16 29.6	3 5.6	-	16 29.6	3 5.6
年 代 別	20代	2 100.0	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0
	30代	12 100.0	5 41.7	4 33.3	-	-	4 33.3	-
	40代	17 100.0	9 52.9	4 23.5	-	-	4 23.5	2 11.8
	50代	26 100.0	8 30.8	8 30.8	5 19.2	-	7 26.9	-
	60代	33 100.0	15 45.5	8 24.2	1 3.0	-	10 30.3	1 3.0
	70歳以上	31 100.0	16 51.6	8 25.8	2 6.5	1 3.2	6 19.4	1 3.2
	年 収 別	100万円未満	28 100.0	9 32.1	10 35.7	2 7.1	-	9 32.1
～300万円未満	30 100.0	14 46.7	8 26.7	1 3.3	-	8 26.7	-	
～500万円未満	27 100.0	15 55.6	5 18.5	1 3.7	-	5 18.5	2 7.4	
～800万円未満	21 100.0	11 52.4	6 28.6	2 9.5	1 4.8	5 23.8	-	
～1000万円未満	5 100.0	2 40.0	1 20.0	-	-	2 40.0	-	
1000万円以上	4 100.0	2 50.0	-	-	-	1 25.0	1 25.0	
地 域 別	首都圏	68 100.0	33 48.5	15 22.1	5 7.4	-	22 32.4	1 1.5
	阪神圏	53 100.0	20 37.7	17 32.1	3 5.7	1 1.9	10 18.9	4 7.5

問 37-2【「NISA口座」で購入している金融商品(重複回答)

／保有状況・保有種別－NISA口座開設者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	株 式	株式投資信託	不動産投信	ETF	その他	無回答	
全 体	121 100.0	53 43.8	32 26.4	8 6.6	1 0.8	32 26.4	5 4.1	
保 有 状 況 別	現在保有層	66 100.0	24 36.4	31 47.0	8 12.1	1 1.5	11 16.7	-
	保有経験層	18 100.0	9 50.0	1 5.6	-	-	6 33.3	3 16.7
	保有未経験 ・購入意向層	11 100.0	6 54.5	-	-	-	5 45.5	-
	保有未経験 ・非購入意向層	26 100.0	14 53.8	-	-	-	10 38.5	2 7.7
	保 有 種 類 別	株式投資信託 保有層	47 100.0	18 38.3	22 46.8	6 12.8	1 2.1	7 14.9
公社債投資信託 のみ保有層	6 100.0	3 50.0	3 50.0	-	-	-	-	
その他投資信託 保有層	13 100.0	3 23.1	6 46.2	2 15.4	-	4 30.8	-	

(4) 「NISA口座」を開設していない理由(NISA口座非開設者)

「少額投資非課税制度(NISA:ニーサ)」の口座を開設していない人に対し、「NISA口座」を開設していない理由を尋ねたところ、「投資自体に関心がない」と「投資に回すお金がない」が同程度(順に 34.5%、30.7%)で高く、「制度が複雑でよく理解できない」(15.9%)が続く。これら以外の理由は10%に満たない。なお、「特に理由はない」が28.1%みられる。

対象者属性別にみると、性別では、女性は「投資自体に関心がない」が特に高く、「制度が複雑でよく理解できない」も男性より高い。男性は「投資に回すお金がない」が「投資自体に関心がない」を上回り、トップ理由となっている。

年代別では、20代と60代では「投資自体に関心がない」が高く、「投資に回すお金がない」を大きく上回っている。一方、40代を中心とする層では「投資に回すお金がない」が高く、40代では「投資自体に関心がない」を上回り、トップ理由となっている。「制度が複雑でよく理解できない」は若年層ほどやや高い傾向がみられる。「特に理由はない」は70歳以上でやや高い。

年収別では、「投資自体に関心がない」は年収が低いほど高く、“300万円未満”の層ではこれがトップ理由となっている。一方、「投資に回すお金がない」は年収が高いほど高く、“500万円以上”の層ではこちらがトップ理由である。「制度が複雑でよく理解できない」には年収による差はみられない。

地域別では、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別については、現在保有層では「特に理由はない」が半数近く(43.9%)を占め、具体的な理由としては「投資に回すお金がない」が最も高く、「投資自体に関心がない」は10%以下と低い。保有経験層では、「投資自体に関心がない」と「投資に回すお金がない」が同程度で並ぶ。保有未経験・購入意向層では「投資に回すお金がない」が「投資自体に関心がない」を大きく上回り、「手続きが複雑で面倒」も他の層より高い。この層では「特に理由はない」が他の層より低く、「NISA口座」を開設したいが、なかなかできない様子がうかがえる。保有未経験・非購入意向層では「投資自体に関心がない」が他の層より高い。

投資信託保有種類別では、サンプル数が少ないため、コメントは割愛する。

問 37-3【「N I S A 口座」を開設していない理由(重複回答)

／対象者属性別－N I S A 口座非開設者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	投資自体に関心がない	投資に回すお金がない	制度が複雑でよく理解できない	手続きが煩雑で面倒	年間の非課税投資限度額が小さい	非課税期間が短い	口座開設可能期間が短い	その他	特に理由はない	無回答
全体	797	34.5	30.7	15.9	8.5	3.6	2.0	0.4	2.6	28.1	2.0
性別											
男性	405	28.6	32.8	13.3	8.6	5.2	2.5	0.2	3.5	28.6	2.0
女性	392	40.6	28.6	18.6	8.4	2.0	1.5	0.5	1.8	27.6	2.0
年代別											
20代	107	41.1	28.0	18.7	7.5	0.9	2.8	0.9	0.9	27.1	1.9
30代	151	35.1	30.5	18.5	9.9	4.6	2.6	0.7	1.3	27.2	1.3
40代	178	28.7	39.9	17.4	9.0	3.9	1.1	0.6	1.7	26.4	2.8
50代	153	30.1	34.6	15.7	11.1	3.9	2.0	0.0	2.0	28.8	2.0
60代	129	45.0	20.2	11.6	7.0	4.7	2.3	0.0	5.4	26.4	1.6
70歳以上	79	29.1	24.1	11.4	3.8	2.5	1.3	0.0	6.3	36.7	2.5
年収別											
100万円未満	243	42.8	29.6	15.2	8.6	2.9	2.1	0.4	1.6	27.6	1.2
～300万円未満	191	34.0	27.2	17.8	6.3	1.0	2.6	1.0	4.2	27.7	1.6
～500万円未満	162	33.3	34.6	16.7	7.4	3.7	1.2	0.0	3.1	26.5	2.5
～800万円未満	106	21.7	38.7	16.0	12.3	4.7	2.8	0.0	2.8	27.4	1.9
～1000万円未満	32	15.6	40.6	12.5	12.5	12.5	3.1	0.0	0.0	34.4	6.3
1000万円以上	14	35.7	14.3	0.0	7.1	21.4	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0
地域別											
首都圏	476	33.8	31.9	15.5	8.6	4.2	2.7	0.2	2.9	28.8	1.1
阪神圏	321	35.5	29.0	16.5	8.4	2.8	0.9	0.6	2.2	27.1	3.4

問 37-3【「N I S A 口座」を開設していない理由(重複回答)

／保有状況・保有種類別－N I S A 口座非開設者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	投資自体に関心がない	投資に回すお金がない	制度が複雑でよく理解できない	手続きが煩雑で面倒	年間の非課税投資限度額が小さい	非課税期間が短い	口座開設可能期間が短い	その他	特に理由はない	無回答
全体	797	34.5	30.7	15.9	8.5	3.6	2.0	0.4	2.6	28.1	2.0
保有状況別											
現在保有層	66	9.1	21.2	13.6	10.6	12.1	4.5	0.0	4.5	43.9	1.5
保有経験層	60	26.7	31.7	13.3	6.7	11.7	5.0	1.7	5.0	30.0	0.0
保有未経験・購入意向層	75	13.3	42.7	18.7	21.3	6.7	5.3	2.7	5.3	20.0	1.3
保有未経験・非購入意向層	596	40.8	30.2	16.1	6.9	1.5	1.0	0.0	1.8	27.2	2.3
保有種類別											
株式投資信託保有層	40	7.5	30.0	12.5	10.0	12.5	5.0	0.0	7.5	40.0	0.0
公社債投資信託のみ保有層	5	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
その他投資信託保有層	19	5.3	10.5	10.5	5.3	15.8	5.3	0.0	0.0	57.9	0.0

9. インターネットによる金融取引状況(全体)

(1) インターネットによる金融取引経験

インターネットの利用の有無に関わらず全員に、インターネットを通じた金融取引の経験を尋ねると、「ある」＝取引経験率は12.3%であり、「利用経験はないが今後行いたい」＝取引意向率は5.0%みられる。

時系列でも、大きな変化はみられない。

対象者属性別にみると、性別では、インターネット取引経験率は男性の方が高い。

年代別では、インターネット取引経験率は30～50代で約17%と高いが、それ以外の年代では約5%と低い。インターネット取引意向率は20代で11.6%と高い。

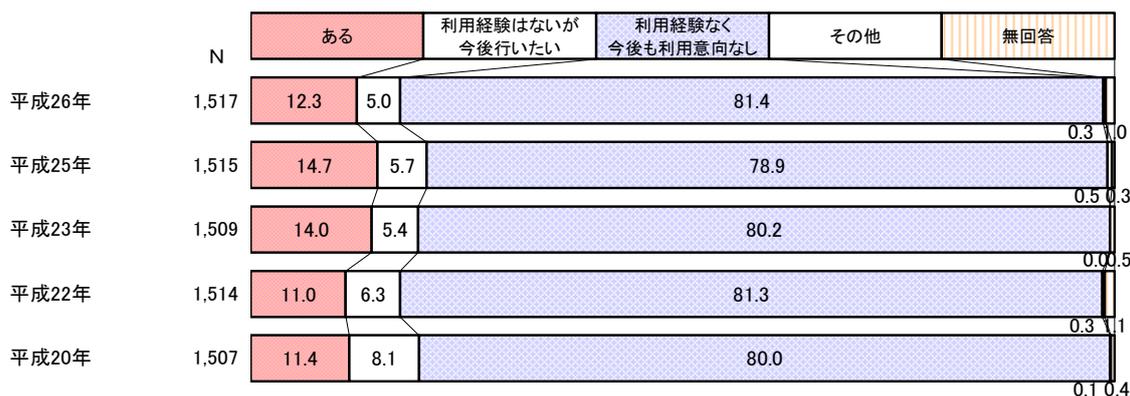
年収別でみると、インターネット取引経験率は年収が高いほど高くなる傾向がみられ、「～800万円未満」と「～1000万円未満」の層では約25%にのぼる。インターネット取引意向率には大きな差はみられない。

地域別では、インターネット取引経験率、取引意向率ともに大きな差はみられない。

投資信託保有状況別にみると、インターネット取引経験率は現在保有層が31.7%で最も高く、次いで保有未経験・購入意向層が25.5%で、保有経験層(17.4%)をやや上回っている。保有未経験・非購入意向層のインターネット取引経験率は8.2%で最も低い。インターネット取引意向率は保有未経験・購入意向層が13.6%で最も高く、次いで保有経験層が8.7%であり、現在保有層と保有未経験・非購入意向層は5%未満と低い。

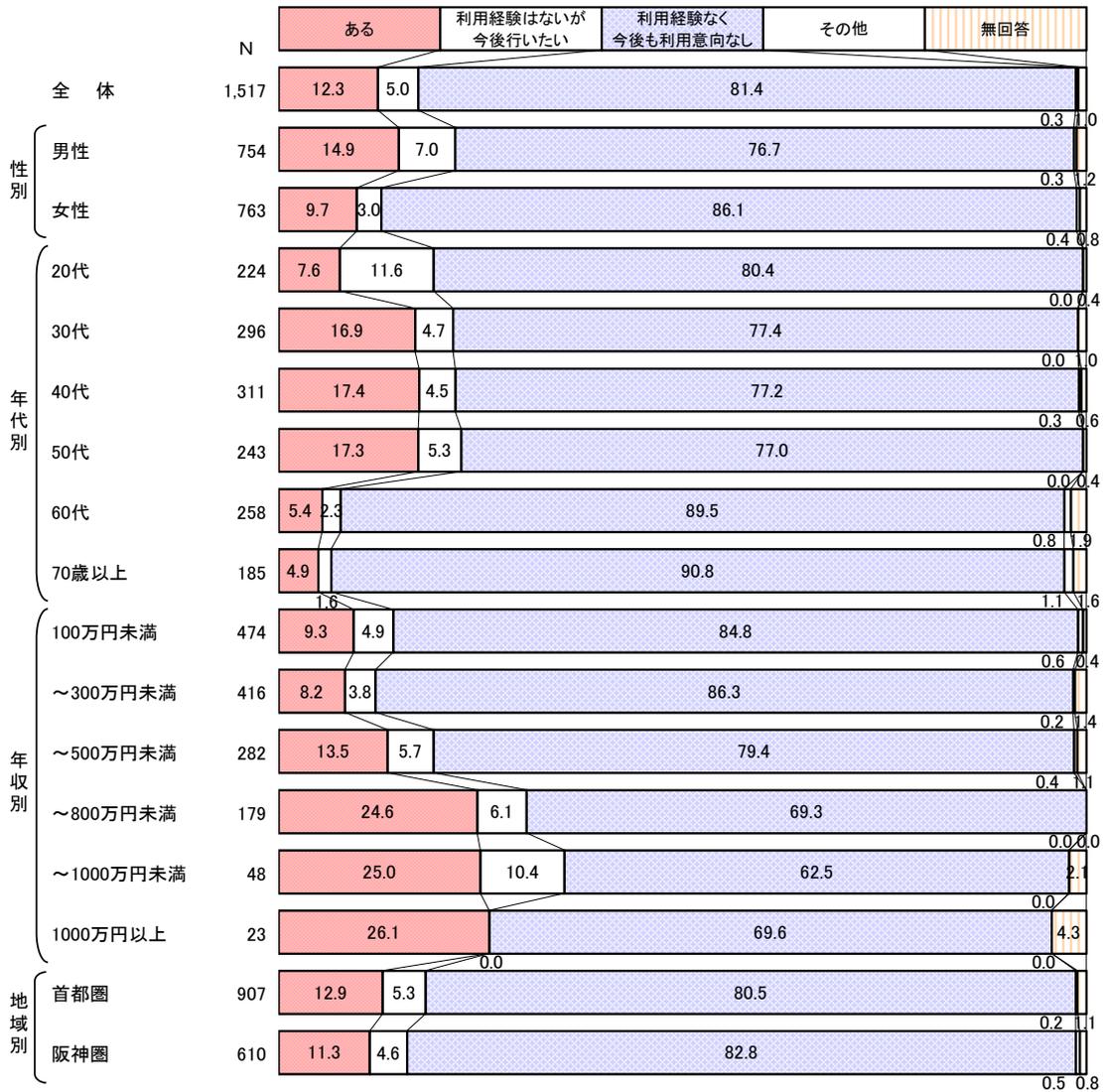
投資信託保有種類別では、インターネット取引経験率は株式投資信託保有層の方がその他投資信託保有層より高い。インターネット取引意向率には大きな差はみられない。

問 36 【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／時系列】



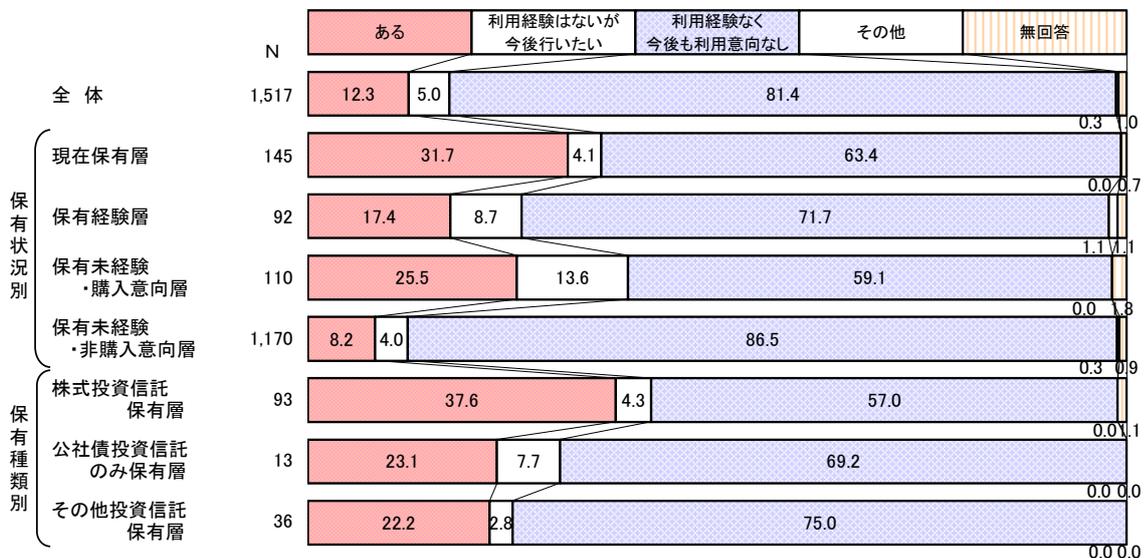
問 36 【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／対象者属性別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



問 36 【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／保有状況・保有種類別】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) インターネットによる取引経験のある金融商品(インターネット取引経験者)

インターネットによる金融取引経験がある人に対し、インターネットで取引を行ったことがある金融商品について尋ねたところ、「普通預貯金」が62.4%で最も高く、次いで「株式・国債・公債・社債・転換社債」(42.5%)、「定期預金・外貨預金」(25.3%)、「損保・生保」(17.2%)の順となっており、「投資信託」と「外国為替証拠金取引(FX)」はともに10%に満たない。

時系列でみると、大きな変化はみられない。

対象者属性別でみると、性別では、男性は「株式・国債・公債・社債・転換社債」のインターネット取引経験率が女性に比べ高い。

年代別では、30代と50代では「普通預貯金」のインターネット取引経験率が高く、「株式・国債・公債・社債・転換社債」を大きく上回るが、40代では両者の差は小さい。

年収別では、「株式・国債・公債・社債・転換社債」のインターネット取引経験率は「100万円未満」の層に比べ、「～800万円未満」の層では高い。

地域別では、首都圏は「普通預貯金」のインターネット取引経験率が阪神圏に比べ高いが、阪神圏は「損保・生保」のインターネット取引経験率が首都圏より高い。

投資信託保有状況別でみると、現在保有層は「株式・国債・公債・社債・転換社債」のインターネット取引経験率が69.6%と高く、「投資信託」(30.4%)、「ETF(不動産投信)」(15.2%)も他の層を大きく上回っている。一方、保有未経験・非購入意向層では「株式・国債・公債・社債・転換社債」のインターネット取引経験率は31.3%と低い。

投資信託保有種類別では、サンプル数が少ないため、コメントは割愛する。

問 36-1【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)

／時系列ーインターネット取引経験者ベース】

	N	普通預貯金	株式・国債・公債・社債・転換社債	定期預金・外貨預金	損保・生保	投資信託	外国為替証拠金取引(FX)	ETF・不動産投信	その他	無回答
平成26年	186	62.4	42.5	25.3	17.2	8.6	5.9	3.8	3.2	0.0
平成25年	222	60.8	40.5	22.5	19.8	10.4	9.5	6.3	2.7	0.0
平成23年	211	64.5	35.1	23.2	20.9	7.1	7.1	2.8	1.9	0.5
平成22年	167	52.1	44.9	20.4	15.6	8.4	7.2	3.0	3.0	0.0
平成20年	172	54.1	42.4	20.3	29.7	5.8	-	2.3	1.7	0.0

※ 平成22年から「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。

問 36-1 【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)】

／対象者属性別ーインターネット取引経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	普通預貯金	株式・国債・ 公債・社債・ 転換社債	定期預金・ 外貨預金	損保・生保	投資信託	外国為替 証拠金 取引(FX)	ETF・ 不動産投信	その他	無回答
全体	186	62.4	42.5	25.3	17.2	8.6	5.9	3.8	3.2	0.0
性別										
男性	112	60.7	49.1	22.3	20.5	9.8	6.3	4.5	2.7	0.0
女性	74	64.9	32.4	29.7	12.2	6.8	5.4	2.7	4.1	0.0
年代別										
20代	17	70.6	11.8	11.8	5.9	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0
30代	50	76.0	32.0	24.0	20.0	10.0	10.0	4.0	6.0	0.0
40代	54	50.0	50.0	27.8	25.9	3.7	5.6	3.7	3.7	0.0
50代	42	66.7	45.2	31.0	14.3	16.7	0.0	4.8	0.0	0.0
60代	14	42.9	57.1	21.4	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0
70歳以上	9	55.6	77.8	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0
年収別										
100万円未満	44	63.6	31.8	22.7	15.9	9.1	6.8	4.5	2.3	0.0
～300万円未満	34	58.8	44.1	26.5	2.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0
～500万円未満	38	65.8	36.8	21.1	21.1	10.5	7.9	0.0	5.3	0.0
～800万円未満	44	63.6	54.5	27.3	25.0	11.4	6.8	6.8	0.0	0.0
～1000万円未満	12	33.3	66.7	41.7	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
1000万円以上	6	83.3	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
地域別										
首都圏	117	68.4	41.0	27.4	12.0	8.5	5.1	5.1	3.4	0.0
阪神圏	69	52.2	44.9	21.7	26.1	8.7	7.2	1.4	2.9	0.0

問 36-1 【インターネットによる取引経験のある金融商品(重複回答)】

／保有状況・保有種類別ーインターネット取引経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	普通預貯金	株式・国債・ 公債・社債・ 転換社債	定期預金・ 外貨預金	損保・生保	投資信託	外国為替 証拠金 取引(FX)	ETF・ 不動産投信	その他	無回答
全体	186	62.4	42.5	25.3	17.2	8.6	5.9	3.8	3.2	0.0
保有状況別										
現在保有層	46	54.3	69.6	32.6	23.9	30.4	6.5	15.2	4.3	0.0
保有経験層	16	50.0	43.8	31.3	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0
保有未経験 ・購入意向層	28	71.4	35.7	28.6	17.9	0.0	14.3	0.0	3.6	0.0
保有未経験 ・非購入意向層	96	65.6	31.3	19.8	15.6	0.0	3.1	0.0	3.1	0.0
保有種類別										
株式投資信託 保有層	35	57.1	74.3	37.1	28.6	34.3	5.7	14.3	5.7	0.0
公社債投資信託 のみ保有層	3	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他投資信託 保有層	8	37.5	62.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0

(3) インターネットによる取引意向のある金融商品(インターネット取引未経験者のうち取引意向者)

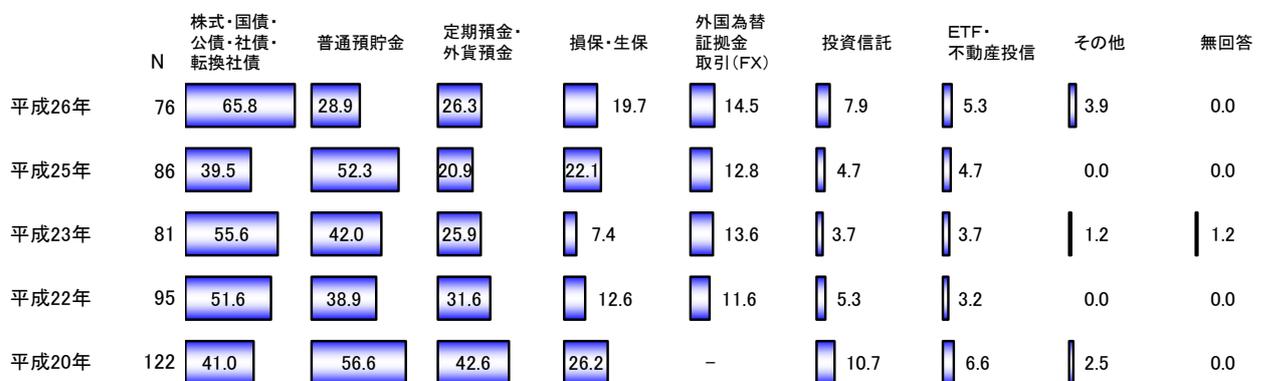
インターネットによる金融取引の経験はないが、今後の利用意向がある人に対し、インターネットで取引を行ってみたい金融商品を探ねたところ、「株式・国債・公債・社債・転換社債」が65.8%で特に高い。以下、「普通預貯金」(28.9%)、「定期預金・外貨預金」(26.3%)、「損保・生保」(19.7%)、「外国為替証拠金取引(FX)」(14.5%)の順に続く。「投資信託」と「ETF・不動産投信」はともに10%に満たない。

時系列でみると、サンプル数が少ないため変動が大きく、「株式・国債・公債・社債・転換社債」は前回より高くなったが、「普通預貯金」は前回より低くなった。「定期預金・外貨預金」は平成20年以降下降傾向がみられたが、今回は前回は維持している。

対象者属性別はサンプル数が少ないため、コメントを割愛する。

問 36-2【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)

／時系列ーインターネット取引未経験者のうち取引意向者ベース】



※ 平成22年から「外国為替証拠金取引(FX)」を追加。

問 36-2【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)

／対象者属性別－インターネット取引未経験者のうち取引意向者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	普通預貯金	定期預金 ・外貨預金	損保・生保	外国為替 証拠金取引 (FX)	投資信託	ETF・ 不動産投信	その他	無回答
全 体	76 100.0	50 65.8	22 28.9	20 26.3	15 19.7	11 14.5	6 7.9	4 5.3	3 3.9	-
性 別	男 性	53 100.0	38 71.7	15 28.3	10 18.9	11 20.8	9 17.0	2 3.8	2 5.7	3 -
	女 性	23 100.0	12 52.2	7 30.4	10 43.5	4 17.4	2 8.7	4 17.4	2 8.7	-
年 代 別	20代	26 100.0	16 61.5	9 34.6	10 38.5	4 15.4	8 30.8	2 7.7	1 3.8	2 7.7
	30代	14 100.0	7 50.0	6 42.9	2 14.3	4 28.6	-	2 14.3	-	-
	40代	14 100.0	8 57.1	3 21.4	5 35.7	-	1 7.1	-	1 7.1	1 7.1
	50代	13 100.0	10 76.9	4 30.8	3 23.1	6 46.2	-	2 15.4	2 15.4	-
	60代	6 100.0	6 100.0	-	-	1 16.7	2 33.3	-	-	-
	70歳以上	3 100.0	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-
	年 取 別	100万円未満	23 100.0	13 56.5	6 26.1	11 47.8	3 13.0	1 4.3	1 4.3	1 4.3
～300万円未満	16 100.0	11 68.8	6 37.5	4 25.0	5 31.3	4 25.0	2 12.5	1 6.3	-	
～500万円未満	16 100.0	11 68.8	5 31.3	3 18.8	3 18.8	4 25.0	3 18.8	2 12.5	-	
～800万円未満	11 100.0	7 63.6	3 27.3	1 9.1	3 27.3	1 9.1	-	1 9.1	-	
～1000万円未満	5 100.0	4 80.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	-	-	1 20.0	
1000万円以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
地 域 別	首都圏	48 100.0	33 68.8	14 29.2	15 31.3	11 22.9	6 12.5	4 8.3	4 8.3	2 4.2
	阪神圏	28 100.0	17 60.7	8 28.6	5 17.9	4 14.3	5 17.9	2 7.1	-	1 3.6

問 36-2【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)

／保有状況・保有種類別－インターネット取引未経験者のうち取引意向者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

(上段:N)(下段:%)

	全 体	株式・国債 ・公債・社債 ・転換社債	普通預貯金	定期預金 ・外貨預金	損保・生保	外国為替 証拠金取引 (FX)	投資信託	ETF・ 不動産投信	その他	無回答
全 体	76 100.0	50 65.8	22 28.9	20 26.3	15 19.7	11 14.5	6 7.9	4 5.3	3 3.9	-
保 有 状 況 別	現在保有層	6 100.0	5 83.3	-	-	2 33.3	1 16.7	1 33.3	2 -	-
	保有経験層	8 100.0	7 87.5	2 25.0	2 25.0	3 37.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-
	保有未経験 ・購入意向層	15 100.0	11 73.3	4 26.7	4 26.7	4 26.7	4 13.3	2 6.7	1 -	-
	保有未経験 ・非購入意向層	47 100.0	27 57.4	16 34.0	14 29.8	6 12.8	5 10.6	2 4.3	-	3 6.4
	保有種類別	株式投資信託 保有層	4 100.0	4 100.0	-	-	2 50.0	-	1 25.0	1 -
公社債投資信託 のみ保有層	1 100.0	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-	-	
その他投資信託 保有層	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	